

令和3年度版

消 防 年 報

令和4年度刊行 第47号

白山野々市広域消防本部

消 防 訓

一 われら消防職員は、使命の重要性を深く認識し、厳正な規律と士気の高揚につとめる。

一 われら消防職員は、強健な身体と不屈の精神を養い、誠実に職務の遂行につとめる。

一 われら消防職員は、知識をひろめ技術の習得に励み、あわせて豊かな教養を身につけるようつとめる。

一 われら消防職員は、互いに励まし助け合い、全体の協調融和につとめる。

一 われら消防職員は、消防人としての自覚と誇りをもって行動し、住民の期待と信頼にこたえるようつとめる。

昭和五十三年九月一日制定



消防章の輪郭を台地とし、当消防本部を中心に置き、5署3分署を8の頂点で表した多角形で、地域の安全・安心を守るという意気込みを象徴するものです。

平成 5年 4月 1日制定
平成17年 2月 1日改定
平成23年11月11日改定

本年報は、白山野々市広域事務組合の消防現勢及び令和3年度（災害統計は令和3年）中の各種統計情報等について編集したものです。

令和4年12月

白山野々市広域消防本部

目 次

消防現勢（令和4年4月1日現在）

地勢及び消防のあゆみ

位置及び地勢	1
組合の構成市町	2
組合消防のあゆみ	3

消防組織編

組織及び施設	18
組合消防概況図	20
組織機構図及び事務分掌	21
消防職員配置表、階級別職員数	22
年齢区分別職員数、勤続年数別職員数	23
消防職員の各種免許・資格取得状況	24
令和4年度白山野々市広域事務組合歳入歳出予算額（当初）	25
歳入歳出予算額の構成、消防費予算性質別比較	26
消防費当初予算の推移	27

消防施設編

車両配置状況	28
資器材一覧表	29
高機能消防指令センターの機能	31
無線局設置状況、通信施設設置状況	32

予 防 編

火災予防運動	33
防火・防災組織の現況	34
中高層建築物の現況	35

年度統計（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

広報活動及び防火指導	36
防火対象物の数	37
予防査察の数	38
建築同意事務処理状況	39
防火管理者選任状況	40
各種届出等受理状況	41
危険物規制	42
危険物施設数	43
危険物施設の規模及び種別	44
危険物施設許可・検査の状況、液体危険物タンクの完成検査前検査の状況	45

危険物施設の立入検査状況	46
各種救命講習実施状況	47
消防音楽隊	48
防災学習センター	49

災害統計（令和3年1月1日～令和3年12月31日）

火災編

令和3年の火災概要	50
火災状況及び前年比較	51
過去5年間の火災状況	52
構成市町別出火状況	53
過去5年間の構成市町別出火状況	54
過去5年間の原因別出火状況	55
時間・曜日・覚知・原因別出火件数	56

救急・救助編

令和3年の救急及び救助概要	57
救急活動状況	58
過去5年間の救急活動概要	59
構成市町別救急状況	60
救急隊別救急活動状況	61
事故種別年齢区分別傷病程度別搬送人員	62
時間帯別出動件数、時間帯別搬送人員	63
現場到着所要時間別出動件数、医療機関収容所要時間別搬送人員	64
曜日別月別出動件数、曜日別月別搬送人員	65
白山白川郷ホワイトロード及び北陸自動車道における救急状況	66
救助状況及び前年比較	67
構成市町別救助状況	68
災害対応救助隊等の状況調査	69

その他

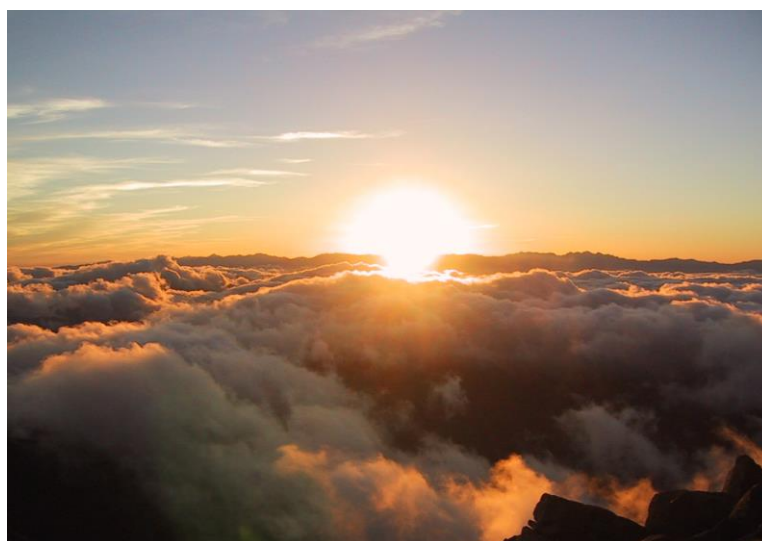
119番着信件数、口頭指導及びバイスタンダー応急手当の状況	70
障害者・外国人に円滑に対応するための取組	71
消防車両等の出動状況	73

備 考

- 文中及び各表の金額と比率は、原則として表示単位の小数第1位を四捨五入したものであり、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「－」… 該当数値のないもの、意味のないもの
 - 「△」… 比較により減少したもの

消 防 現 勢

地勢及び消防のあゆみ



はくさん

白 山

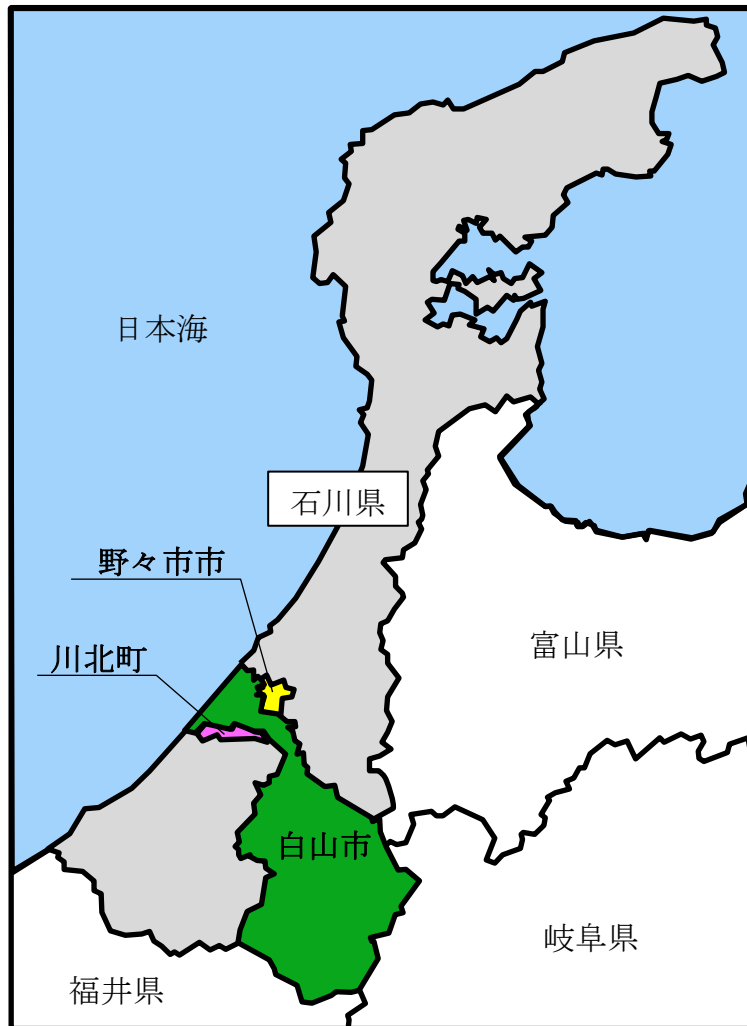
古くから雪の「しらやま」や「越のしらね」の名で和歌にも詠まれた白山は、富士山、立山とともに日本三名山の一つに数えられ、標高2,702メートルの主峰「御前峰」からのご来光は、身も心も癒してくれます。

また一方では、信仰の山としても知られ、養老元年（717年）に越前の僧泰澄が初めて白山に登り、修行したのが登拝の始まりと伝えられています。

昭和37年には、国立公園に指定され、その環境の下、ハクサンコザクラ、ミヤマクロユリほか多種の高山植物が自生し、ニホンカモシカやイヌワシが時折その姿を現してくれます。

近年の登山ブームに加え、平成29年には開山1300年を迎えたことで、多くの登山客で賑わっています。

位置及び地勢



本組合は、白山市、野々市市及び川北町で組織され、石川県の南部域である通称「加賀地方」に位置しています。ここでは、日本三名山の一つに数えられる白山が見事な山容を見せ、この名山を源とする手取川が肥沃で広大な扇状地を形成し、「日本の渚百選」に選ばれた小舞子海岸のある日本海へ注いでいます。

白山市の北西部（白山市合併前の松任市、美川町及び鶴来町）、野々市市及び川北町は、手取川扇状地にあり、加賀の穀倉地帯として知られる金沢平野の一部を形成しています。

また、この地域は、金沢外環状道路海側環線の開通や白山インターチェンジの設置により、住宅地の増加そして商業施設や工場の進出が目立っています。その他の地域（白山市合併前の河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村及び白峰村）は、白山の麓にあり、温泉や四季折々の豊かな自然に恵まれ、そこには多くの人達が観光や登山そしてスキーを楽しみに訪れています。

交通機関としては、南北に国道157号と北陸鉄道石川線が走り、東西に国道8号と高速自動車国道北陸自動車道そしてJR北陸本線が走っています。そして、平成27年3月の北陸新幹線開通に伴い、白山市内に車両基地が整備されています。

また、白山の北側を岐阜県に通じる有料山岳ドライブウェイの白山林道（通称「白山白川郷ホワイトロード」）は、新緑の6月から紅葉の11月初めまでの供用期間に、多くのツーリストに雄大な自然のパノラマを提供しています。

組 合 の 構 成 市 町

白 山 市 (はくさんし)	野々市市 (ののいちし)	川 北 町 (かわきたまち)
		
<p>青空にそびえる緑豊かな白山を象徴として中央に配置、その麓に流れる3本の潮流は、上の1本が手取川、下の2本は日本海を表現しています。</p> <p>右上がりの楕円に包まれた造形は、豊かな自然に生まれ未来へ発展しつづける白山市をあらわしています。</p>	<p>平仮名で” のの ” を組み合わせ分銅を形成し、市の融和発展を象徴した簡潔清爽な意匠です。</p>	<p>上の部分は、雄大な霊峰白山に源を発する県下最大の手取川をかたどり、町の永遠の発展を表しています。</p> <p>下の部分は、その両岸に広がる肥沃な加賀平野に抱かれている川北町の豊かさと平和の願いを表したもので、町のたゆみない前進を象徴しています。</p>

市 町 別	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
組 合 管 轄	783.13	172,872	72,305
白 山 市	754.93	112,830	45,357
松 任 地 域	※59.93	71,857	29,034
美 川 地 域	※9.12	12,339	4,979
鶴 来 地 域	※35.64	23,407	9,090
河 内 地 域	※74.42	943	399
吉 野 谷 地 域	※142.89	883	401
鳥 越 地 域	※74.15	2,312	933
尾 口 地 域	※137.52	404	216
白 峰 地 域	※221.5	685	305
野 々 市 市	13.56	53,898	24,938
川 北 町	14.64	6,144	2,010

※ 平成27年3月、国土地理院により白山市の面積が755.17平方キロメートルから754.93平方キロメートルに変更となりましたが、各地域についての変更面積は未発表のため、旧来の数値としています。

組合消防のあゆみ

松任市、美川町、鶴来町、野々市町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村及び白峰村の1市3町5村が、生活の多様化と高度化に伴い組織の広域化を図り、有機的な連携のもとに防災機能の飛躍的拡充を図るため「松任石川広域消防組合」を発足させた。

- 昭和50年 4月 1日 1市3町5村からなる広域消防の設立が石川県知事から許可され、松任石川広域消防組合を設立。初代消防長に間野四郎就任
従来から常備体制があった松任市に消防本部及び消防署を、美川町、鶴来町、野々市町及び吉野谷村に分署を、白峰村に分遣所をそれぞれ設け、消防長以下34名、事務局3名で発足。消防庁舎については、とりあえず仮庁舎とし、各市町村から譲渡された消防ポンプ自動車及び救急車により、消防業務を開始
- 4月 9日 消防職員19名を採用。それぞれの分署及び分遣所に配属し、事実上の分署開設
6月 1日 消防職員3名採用
9月 1日 消防職員3名を採用し、総員59名となる。
10月16日 超短波無線電話基地局5局（分署及び分遣所）及び移動局7局（美川1、鶴来2、野々市1、白山1、白峰2）を購入
11月28日 超短波無線電話移動局2局を購入（野々市、白山）

- 昭和51年 2月26日 東消式高発泡器を購入
4月 1日 消防職員9名採用
6月30日 消防職員1名退職
9月 1日 消防職員1名を採用し、総員68名となる。
10月 5日 消防庁から救急車1台が譲与され、美川分署に配置し、救急業務を開始
11月24日 水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、鶴来分署に配置
12月 7日 消防本部・消防署庁舎を総工費1億2,750万円で3月に着工。11月に完成し、12月7日から業務を開始。美川、鶴来、野々市、白山の各分署庁舎も12月に完成し、それぞれ新庁舎にて、業務を開始
12月 9日 超短波無線電話移動局2局（美川、鶴来）、携帯局5局（美川、鶴来、野々市、白山、白峰）を購入し、通信施設の増強を図る。

- 昭和52年 2月28日 消防庁から救急車1台が譲与され、野々市分署に配置。従来の救急車を消防本部の本部車とする。
3月 2日 ジェットシューター4台を購入し、鶴来分署、白山分署及び白峰分遣所に配置
3月12日 空気呼吸器（ライフゼム8型）5基を購入

- 4月 1日 消防職員10名を採用し、総員78名となる。
- 9月28日 消防ポンプ自動車1台を購入し、白山分署に配置
- 11月12日 はしご付消防ポンプ自動車（30m級）1台を購入し、消防署に配置
超短波無線電話移動局3局購入（消防署2、野々市1）し、うち野々市分署の旧機を本部車に設置
- 12月20日 消防一斉指令装置（緊急電話集約機設備）を設置
- 12月22日 16ミリ映写機一式を購入

- 昭和53年
- 3月 2日 2B型救急車1台を購入。鶴来分署に配置し、旧車を廃車
 - 3月31日 消防長 間野四郎 松任市へ帰任
消防職員1名美川町へ帰任。職員1名退職
 - 4月 1日 消防長 金森 義 就任。新たに次長として組合事務局から1名出向
消防職員4名を採用し、総員81名となる。
 - 9月 1日 職務遂行の指針として「消防訓」を制定
 - 11月 7日 II型化学消防ポンプ自動車1台を購入。消防署に配置し、旧水槽付消防ポンプ自動車を廃車
超短波無線電話移動局1局を購入（消防署）

- 昭和54年
- 3月31日 次長は松任市に、消防職員1名は鶴来町へそれぞれ帰任
 - 4月 1日 消防職員4名を採用し、総員83名となる。
 - 8月31日 消防職員1名退職
 - 9月20日 日本消防協会から2B型救急車1台が譲与され、消防署に配置。従来の救急車を救急予備車とする。
小型動力ポンプ積載車を白山分署に配置
消防職員1名退職
 - 10月26日 消防職員1名が病死し、総員80名となる。
 - 11月29日 消防ポンプ自動車1台を購入し、野々市分署に配置
超短波無線電話移動局1局を購入（野々市）
 - 12月20日 白峰分遣所庁舎を総工費2,020万円で7月に着工。11月に完成し、12月20日から新庁舎にて業務を開始

- 昭和55年
- 3月31日 消防職員1名退職
消防本部庁舎前に緊急出動用点滅装置を設置
 - 4月 1日 消防職員10名を採用し、総員89名となる。
 - 10月 9日 超短波無線電話携帯局2局を購入（消防署）
 - 10月14日 北陸自動車道の美川インターチェンジ設置に伴い、高速道路救急業務を開始

(金沢西IC～小松IC間)

- 10月25日 消防職員1名退職
- 11月29日 消防ポンプ自動車1台を購入し、消防署に配置。従来の消防ポンプ自動車を福留分遣所に配置し、分遣所の車を消防ポンプ予備車とする。
超短波無線電話移動局1局を購入（消防署）
- 12月 3日 消防庁から2B型救急車1台が譲与され、消防署に配置。従来の救急車を白峰分遣所へ配置替えし、分遣所の救急車を廃車

- 昭和56年 3月31日 消防長 金森 義 松任市へ帰任
- 4月 1日 松任石川地区環境衛生施設組合と松任石川広域消防組合を統合し、松任石川広域事務組合となる。
消防長 林 政伍 就任
消防職員1名松任市へ派遣。消防職員3名を採用し、総員90名となる。
- 11月 9日 II型化学消防ポンプ自動車1台を購入し、美川分署に配置
消防ポンプ自動車1台を購入し、鶴来分署に配置
超短波無線電話移動局2局を購入（美川、鶴来）

- 昭和57年 2月20日 超短波無線電話携帯局2局を購入（鶴来、白山）
- 4月 1日 消防職員6名を採用し、総員96名となる。
- 9月30日 消防職員1名退職
松任市福留町にあった福留分遣所を廃止。同分遣所に配置の消防ポンプ自動車2台のうち1台を廃車し、予備車を千代野分署へ配置替えする。
- 10月 1日 松任市の駅西地区に千代野分署庁舎・松任市コミュニティ防災センター及び消防訓練場を総工費9,950万円で5月15日に着工し、9月30日に完成。職員6名と新しく購入した消防ポンプ自動車1台を配置し、業務を開始
超短波無線電話移動局1局を購入（千代野）
- 10月19日 日本防火協会から防火広報車の贈呈を受け、消防署に配置し、超短波無線電話移動局を設置（鶴来）
- 10月28日 超短波無線電話携帯局2局を購入（美川、野々市）
- 12月 1日 消防職員1名を採用し、総員96名となる。
- 12月20日 消防ポンプ自動車1台を購入。美川分署に配置し、旧車を廃車

- 昭和58年 3月31日 予防査察車1台を購入。消防本部に配置し、旧車を廃車
超短波無線電話携帯局1局を購入（消防署）
消防長 林 政伍 松任市へ帰任
- 4月 1日 消防長 浜野茂松 就任

	<p>消防職員1名鶴来町へ帰任、1名松任市へ派遣、9名を採用し、総員103名となる。</p> <p>11月28日 野々市分署庁舎の車庫増床及び改修工事を総工費1,900万円で8月18日に着工し、11月28日に完成</p> <p>屈折はしご付消防ポンプ自動車（20m級）1台を購入し、野々市分署に配置</p> <p>超短波無線電話移動局1局を購入（野々市）</p>
<p>昭和59年</p>	<p>2月16日 超短波無線電話携帯局2局を購入（消防署）</p> <p>4月 1日 5ヵ年整備計画に基づき、消防署の組織機構の改正を行い、消防署を松任消防署に改名。鶴来分署を白山郷消防署に昇格させ、1本部2署4分署1分遣所となる。</p> <p>消防音楽隊を27名編成で発隊</p> <p>消防職員1名を中央清掃センターへ出向させ、7名を採用し、総員109名となる。</p> <p>8月23日 日本消防協会から2B型救急車1台の贈呈を受け、松任消防署に配置</p> <p>9月 3日 超短波無線電話携帯局1局を購入（白山郷）</p> <p>9月10日 白山郷消防署庁舎改修工事を総工費1,045万円で6月12日に着工し9月10日に完成</p> <p>9月30日 消防職員1名退職。消防職員1名を採用し、総員109名となる。</p> <p>10月26日 日本損害保険協会から救助工作車の贈呈を受け、千代野分署に配置</p> <p>11月12日 超短波無線電話移動局1局を購入（松任）</p> <p>12月21日 消防指令車1台を購入し、白山郷消防署に配置</p> <p>超短波無線電話移動局2局を購入（松任、白山郷）</p>
<p>昭和60年</p>	<p>3月31日 消防長 浜野茂松 松任市へ帰任</p> <p>4月 1日 消防長 福島正美 就任</p> <p>消防職員4名を採用し、総員113名となる。</p> <p>5月20日 松任消防署配備のはしご付消防ポンプ自動車（30m級）の分解整備を5月20日に着手し、9月18日に完了</p> <p>10月 2日 美川分署の庁舎改修工事を総工費948万円で6月26日に着工し、10月2日に完成</p> <p>12月25日 2B型救急車1台を国庫補助で購入。白山分署に配置し、旧車を廃車</p>
<p>昭和61年</p>	<p>4月 1日 消防職員4名を採用し、総員117名となる。</p> <p>5月 9日 予防査察車1台を購入。消防本部に配置し、旧車を廃車</p> <p>5月27日 消防職員1名退職</p> <p>10月15日 白山分署の庁舎改修工事及び美川分署ホース乾燥柱設置工事を総工費1,530万円で6月24日に着工し、10月15日に完成</p>
<p>昭和62年</p>	<p>2月18日 2B型救急車1台を消防庁から譲与。1台を県費補助で購入し、美川分署及び野々市</p>

	<p>分署に配置し、旧車を廃車</p> <p>2月27日 消防ポンプ自動車1台を購入。白峰分遣所に配置し、旧車を廃車</p> <p>3月31日 消防職員3名退職</p> <p>4月 1日 消防職員5名を採用</p> <p>7月20日 超短波無線電話携帯局1局を購入（白峰）</p> <p>10月 1日 消防職員1名を組合事務局へ出向させ、総員117名となる。</p> <p>11月30日 II型化学消防ポンプ自動車1台を購入。白山郷消防署に配置し、旧水槽車を廃車</p> <p>12月10日 千代野分署配備の消防ポンプ予備車を廃車</p>
昭和63年	<p>3月31日 消防長 福島 正美 松任市へ帰任 消防職員2名退職</p> <p>4月 1日 消防長 出村義治 就任 松任市から派遣職員1名、消防職員1名を採用し、総員117名となる。</p> <p>11月29日 超短波無線電話携帯局1局を購入（野々市）し、旧機を消防本部に配置</p> <p>12月 2日 消防職員1名退職</p> <p>12月12日 水槽付消防ポンプ自動車II型1台を国庫補助で購入。野々市分署に配置し、旧水槽車を廃車 2B型救急車1台を消防庁から譲与。白山郷消防署に配置し、旧車を廃車</p> <p>12月20日 超短波無線電話基地局1局を購入（松任）し、旧機を予防2号車に設置</p>
平成元年	<p>4月 1日 事務局への出向職員1名帰任。消防職員3名を採用し、総員120名となる。</p> <p>4月30日 消防職員2名退職</p> <p>6月27日 機材車1台を購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車</p> <p>12月25日 2B型救急車1台を消防庁から譲与。白峰分遣所に配置し、旧車を廃車</p>
平成 2年	<p>1月 1日 消防職員1名採用</p> <p>3月31日 消防職員2名退職</p> <p>4月 1日 消防職員4名を採用し、総員121名となる。</p> <p>7月10日 本部指令車1台を購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車</p> <p>9月 3日 消防職員1名が交通事故死し、総員120名となる。</p>
平成 3年	<p>3月19日 消防ポンプ自動車1台を購入し、松任消防署に配置</p> <p>3月31日 消防長 出村義治 松任市へ帰任 松任市からの派遣職員1名松任市へ帰任</p> <p>4月 1日 消防長 佐々木成功 就任</p>

	<p>消防職員4名を採用し、総員123名となる。</p> <p>8月24日 野々市分署配備の屈折はしご付消防ポンプ自動車（20m級）の分解整備を4月15日に着手し、8月24日に完了</p> <p>11月18日 救急車1台を購入。松任消防署に配置し、旧救急1号車を廃車</p>
平成 4年	<p>3月31日 消防長 佐々木成功 松任市へ帰任 消防職員2名退職</p> <p>4月 1日 消防長 長田信二郎 就任 消防署の組織機構の改正を行い、野々市分署を野々市消防署に昇格し、1本部3署3分署1分遣所となる。 消防職員5名を採用し、総員125名となる。</p> <p>4月30日 消防職員1名退職</p> <p>6月 1日 予防査察車1台を購入。消防本部に配置し、旧車を廃車</p> <p>7月 4日 消防本部高圧受電設備を設置</p> <p>9月10日 松任消防署配置のはしご付消防ポンプ自動車（30m級）の分解整備（2回目）を、4月13日に着手し、9月10日に完了</p> <p>9月30日 超短波無線電話携帯局2局を購入（千代野、白山）</p> <p>12月16日 消防ポンプ自動車1台を購入。白山分署に配置し、旧車を廃車</p>
平成 5年	<p>3月31日 消防職員1名退職</p> <p>4月 1日 消防職員11名を採用し、総員134名となる。 消防本部シンボルマークを制定</p> <p>4月26日 予防査察車1台を購入し、消防本部に配置</p> <p>7月30日 消防指令車1台を購入し、野々市消防署に配置 日本防火協会から防火広報車の贈呈を受け、松任消防署に配置し、旧車を廃車</p> <p>9月30日 消防職員2名退職</p> <p>10月21日 高規格救急自動車1台を国庫補助で購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車 超短波無線電話携帯局2局を購入（松任、野々市）</p> <p>11月 1日 救急救命士による救急業務を開始</p> <p>11月10日 消防職員1名退職</p>
平成 6年	<p>1月28日 消防ポンプ自動車1台を購入。野々市消防署に配置し、旧車を廃車</p> <p>3月31日 消防職員2名退職</p> <p>4月 1日 消防職員1名松任市へ派遣させ、9名を採用し、総員137名となる。</p> <p>7月27日 消防指令車1台を購入。白山郷消防署に配置し、旧車を廃車</p> <p>10月 9日 消防音楽隊発足10周年記念演奏会を松任市民会館で開催</p>

- 10月19日 山岳救助機材車1台を購入。白山分署に配置し、小型動力ポンプ積載車を廃車
超短波無線電話携帯局2局を購入（美川、白山郷）
- 11月18日 白峰分遣所庁舎を移転し、11月18日から新庁舎で業務を開始

- 平成 7年
- 1月18日 阪神・淡路大震災に石川県派遣隊として、10名派遣
 - 3月16日 消防職員1名退職
 - 3月31日 消防長 長田信二郎 退任
消防職員2名退職
 - 4月 1日 消防長 関野一長 就任
消防職員8名を採用し、総員142名となる。
消防本部消防課に危険物係が新設される。
消防音楽隊カラーガード隊が12名で発隊
 - 4月24日 消防職員1名退職
 - 4月30日 消防職員1名退職
 - 6月 2日 第19回婦人防火全国大会が松任総合運動公園文化体育館で開催される。
 - 10月18日 高規格救急自動車1台を購入。白山分署に配置し、旧車を廃車

- 平成 8年
- 1月 4日 超短波無線電話携帯局1局を購入（白峰）
 - 1月30日 消防ポンプ自動車2台を購入。白山郷消防署と美川分署に配置し、旧車を廃車
 - 3月28日 松任市から高規格救急自動車の交付を受け、松任消防署に配置
 - 3月31日 消防長 関野一長 松任市へ帰任
消防職員1名退職
 - 4月 1日 消防長 辰田忠明 就任
消防本部の組織機構を改正を行い、予防課（予防係、危険物係）を新設。消防
課（警防係、救急救助係）と庶務課（庶務係）の3課体制となる。
消防職員8名を採用し、総員147名となる。
 - 6月 5日 高規格救急自動車を美川分署に配置し、旧車を廃車
 - 6月17日 消防職員1名退職
 - 7月12日 水難救助隊が9名で発隊
 - 8月 8日 日本損害保険協会から、消防ポンプ自動車の贈呈を受け、千代野分署に配置
 - 8月31日 山岳救助隊が13名で発隊
 - 10月 1日 消防職員委員会が発足
 - 11月 1日 石川県消防防災航空隊に1名派遣
 - 11月11日 勝山市と消防相互応援協定を締結
 - 11月21日 消防ポンプ予備車を廃車
 - 12月16日 III型救助工作車1台を購入。千代野分署に配置し、旧車を廃車
資機材搬送車1台を購入し、千代野分署に配置
 - 12月24日 特別救助隊が12名、化学救助隊が11名で発隊

平成 9年 1月 2日 タンカー「ナホトカ」重油流出事故に沿岸海域の重油回収のため職員を派遣
3月18日 高規格救急自動車1台を購入。野々市消防署に配置し、旧車を廃車
4月 1日 消防署の組織機構の改正を行い、美川分署を美川消防署に、白山分署を白山消防署に、白峰分遣所を白峰分署に昇格させ、白山郷消防署を鶴来消防署に改称して、1本部5署2分署となる。
消防職員10名を採用し、総員156名となる。
4月28日 予防査察車1台を購入。消防本部に配置し、旧車を廃車
5月22・23日 第44回全国消防長会組合消防委員会が松任市で開催
7月 9日 消防指令車1台を購入し、美川消防署に配置
9月30日 消防職員1名退職
10月 7日 高規格救急自動車1台を購入。鶴来消防署に配置し、旧車を廃車
11月 5日 III型化学消防ポンプ自動車1台を購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車
12月17日 超短波無線電話携帯局2局を更新（本部、松任）

平成10年 3月31日 消防職員2名退職
4月 1日 消防職員11名を採用し、総員164名となる。
7月28日 消防指令車1台を購入し、白山消防署に配置
8月26日 野々市消防署配置の屈折はしご付消防ポンプ自動車（20m級）の分解整備を4月13日に着手し、8月26日に完了
10月15日 第39回石川県防災総合訓練が松任市で開催
12月31日 消防職員1名退職

平成11年 1月20日 超短波無線電話携帯局2局を更新（松任、千代野）
1月31日 消防職員1名退職
2月 2日 はしご付消防ポンプ自動車（30m級）1台を国庫補助で購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車
3月31日 消防長 辰田忠明 松任市へ帰任
4月 1日 消防長 松原仁司 就任
消防職員3名を採用し、総員165名となる。
4月28日 高規格救急自動車を1台購入。白峰分署に配置し、旧車を廃車
8月26日 II型化学消防ポンプ自動車1台を購入。美川消防署に配置し、旧車を廃車
9月30日 消防職員1名退職
11月29日 超短波無線電話携帯局2局を更新（鶴来、美川）

平成12年 2月 1日 野々市消防署庁舎を移転し、2月1日から新庁舎で業務を開始
3月11日 野々市消防署新庁舎竣工・松任石川広域消防25年及び消防音楽隊発足15周年・カラーガード隊発足5周年の記念演奏会を野々市町文化会館（フォルテ）で開催

3月31日 消防職員2名退職
4月 1日 消防職員5名を採用し、総員167名となる。
6月28日 消防指令車1台を購入し、白峰分署に配置
10月19日 超短波無線電話携帯局2局を更新（松任、白山）

平成13年 3月31日 消防長 松原仁司 松任市へ帰任
4月 1日 消防長 上田昭男 就任
消防職員1名を松任市へ派遣し、松任市から派遣職員1名を受け入れる。
消防職員3名を採用し、総員170名となる。
10月15日 超短波無線電話基地局2局（鶴来、野々市）と携帯局2局（松任、野々市）を更新する。
11月28日 消防職員1名退職

平成14年 3月31日 消防職員1名退職
4月 1日 消防職員1名松任市から帰任し、松任市からの派遣職員1名松任市へ帰任する。
消防職員4名を採用し、総員172名となる。
9月20日 超短波無線電話基地局2局（美川、白峰）と携帯局2局（美川、白山）を更新する。
10月 7日 消防職員1名退職

平成15年 1月21日 消防ポンプ自動車1台を購入。白峰分署に配置し、旧車を廃車
1月31日 消防職員1名退職
2月 4日 消防長 上田昭男 松任市へ帰任
2月 5日 消防長 中山正吉 就任
4月 1日 松任市から派遣職員1名を受け入れ、消防職員5名を採用し、総員175名となる。
10月 6日 予防査察車1台の寄贈を受ける。
10月28日 高規格救急自動車1台を国庫補助で購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車
10月30日 超短波無線電話基地局1局（白山）と携帯局2局（松任、鶴来）を更新する。
11月13日 消防職員1名が病死し、総員174名となる。

平成16年 2月23日 水槽付消防ポンプ自動車1台を国庫補助で購入。野々市消防署に配置し、旧車を廃車
3月31日 消防長 中山正吉 退任・退職
4月 1日 消防長 米山正昭 就任
消防職員4名を採用し、総員178名となる。
6月23日 消防指令車1台を購入。松任消防署に配置し、旧車を千代野分署連絡車として配置

- 7月13日 新潟・福島豪雨に石川県緊急消防援助隊として、5名派遣
- 7月18日 福井豪雨に石川県緊急消防援助隊として、5名派遣
- 9月30日 松任市からの派遣職員1名松任市へ帰任し、総員177名となる。
- 10月 1日 超短波無線電話携帯局1局（鶴来）を更新する。
- 10月24日 新潟県中越地震に石川県緊急消防援助隊として、10名派遣
- 11月13日 消防音楽隊発足20周年・カラーガード隊発足10周年の記念演奏会を白山市鶴来総合文化会館（クレイン）で開催する。
- 11月30日 消防本部車1台を購入。消防本部に配置し、旧車を廃車

- 平成17年 2月 1日 当組合加入市町村のうち、松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の1市2町5村が合併して白山市となり、名称を「松任石川広域事務組合」から「白山石川広域事務組合」に、同じく消防本部名を「松任石川広域事務組合消防本部」から「白山石川広域消防本部」に改める。
- 4月 1日 消防本部の組織機構の改正を行い、消防課に情報通信係を新設し、同課救急救助係を救急係と改称する。
消防職員4名を採用し、総員181名となる。
 - 8月 4日 消防指令車を購入。野々市消防署に配置し、旧車を千代野分署連絡車として配置
 - 9月30日 消防職員1名退職
 - 12月 8日 化学消防ポンプ自動車1台を国庫補助で購入。鶴来消防署に配置し、旧車を石川県消防学校に教育訓練用として寄附
 - 12月20日 予防査察車1台を購入。消防本部に配置し、旧車を廃車

- 平成18年 3月24日 消防ポンプ自動車1台を県費補助（石油交付金）で購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車
- 4月 1日 消防職員4名を採用し、総員184名となる。
消防本部の組織機構の改正を行い、指揮隊を新設。松任消防署及び野々市消防署に配置し、運用開始
石川県消防防災航空隊に1名派遣
 - 9月20日 警防車を購入。消防本部に配置し、旧車を野々市消防署連絡車として配置

- 平成19年 3月25日 能登半島地震に石川県消防広域応援隊として、7名派遣
- 3月30日 超短波無線電話携帯局2局を購入（指揮隊）
 - 3月31日 消防職員4名退職
 - 4月 1日 消防職員3名を採用し、総員183名となる。
消防本部の組織機構の改正を行い、消防庁舎整備室を新設
 - 10月17日 超短波無線電話基地局1局（美川）を更新する。

平成20年 3月 3日 屈折はしご付消防ポンプ自動車（20m級）1台を購入。野々市消防署に配置し、旧車を廃車
3月31日 消防職員2名退職
4月 1日 消防職員3名を採用し、総員184名となる。
6月30日 消防職員1名退職
7月14日 消防指令車1台を購入。鶴来消防署に配置し、旧車を廃車
8月19日 松任消防署配置のはしご付消防ポンプ自動車（30m級）の分解整備に着手し、平成21年3月30日に完了

平成21年 2月 5日 消防本部・松任消防署庁舎を移転建設するため三浦町にて起工式を行う。
3月24日 消防ポンプ自動車1台を県費補助で購入。野々市消防署に配置し、旧車を廃車
3月31日 消防長 米山正昭 白山市へ帰任
4月 1日 消防長 竹田由喜夫 就任
職員定数を改正し、197人となる。
消防職員7名を採用し、総員190名となる。
11月 1日 消防音楽隊発足25周年・カラーガード隊発足15周年の記念演奏会を白山市鶴来総合文化会館（クレイン）で開催する。
11月30日 高規格救急自動車1台を国庫補助で購入。美川消防署に配置し、旧車を松任救急2号車とする。旧松任救急2号車を廃車

平成22年 3月30日 消防ポンプ自動車1台を国庫補助で購入。白山消防署に配置し、旧車を廃車
3月31日 消防職員3名退職
4月 1日 消防職員7名を採用し、総員194名となる。
10月 5日 消防本部・松任消防署新庁舎が総工費30億3,000万円で完成し、竣工式を行う。
白山石川広域消防本部防災学習センターを新庁舎に併設し、運用開始
消防本部の組織機構の改正により、通信指令課（指令係）を新設し、指揮隊を廃止
高機能消防指令システムを導入し、運用開始
千代野救助工作車を松任消防署に配置し、松任救助工作車とする。
11月25日 高規格救急自動車1台を購入。野々市消防署に配置し、旧車を廃車

平成23年 3月10日 予防査察車1台を購入。消防本部に配置し、旧車を廃車
3月11日 東日本大震災に石川県緊急消防援助隊として、延べ40名を派遣
3月31日 消防職員4名退職
4月 1日 消防職員6名を採用し、総員196名となる。
9月 1日 連絡車を野々市消防署に配置し、旧車を廃車

- 11月11日 当組合加入市町の石川郡野々市町が野々市市へ市制移行したことに伴い、名称を「白山石川広域事務組合」から「白山野々市広域事務組合」に、同じく消防本部名を「白山石川広域消防本部」から「白山野々市広域消防本部」に改める。
- 11月25日 II型救助工作車を国庫補助で購入。白山消防署に配置し、旧車の山岳機材車を廃車

- 平成24年
- 3月10日 高規格救急自動車を県費補助で購入。千代野分署に配置し、救急業務を開始
 - 3月31日 消防長 竹田由喜夫 白山市へ帰任
消防職員2名退職
 - 4月 1日 消防長 西田恵一 就任
職員定数を改正し、210人となる。
消防職員2名を採用し、総員195名となる。
消防本部の組織機構の改正により、庶務課に企画係を、消防課に装備係を、通信指令課に情報係を置く。
松任消防署及び白山消防署に救助係を置く。
 - 4月26日 消防庁から指揮支援車が譲与され、消防本部に配置
 - 10月23日 高規格救急自動車を購入。白山消防署に配置し、旧車を廃車
 - 10月31日 消防職員1名退職
 - 11月30日 消防音楽隊カラーガード隊を廃止

- 平成25年
- 3月31日 消防長 西田恵一 退任・退職
消防職員5名退職
 - 4月 1日 消防長 東 仁司 就任
消防職員11名を採用し、総員199名となる。
石川県消防防災航空隊に1名派遣
 - 4月30日 消防職員2名退職
 - 11月 2日 第54回石川県総合防災訓練が白山市で開催
 - 11月12日 高規格救急自動車を購入。松任消防署に配置し、旧車を予備車、旧予備車を廃車

- 平成26年
- 3月28日 鶴来消防署新庁舎が総工費3億9,000万円で完成し、竣工式を行う。
 - 3月31日 消防職員4名退職
 - 4月 1日 消防職員10名を採用し、総員203名となる。
 - 8月 1日 消防ポンプ自動車を購入。白山消防署に配置し、旧車を鶴来消防署に配置、旧鶴来消防署消防ポンプ自動車を予備車として消防本部に配置
白山消防署配備の救助工作車を松任消防署に配置し、旧車を廃車

- 11月30日 消防音楽隊発足30周年記念演奏会を白山市鶴来総合文化会館（クレイン）で開催する。
- 12月 1日 白山消防署新庁舎が総工費4億5,000万円で完成し、竣工式を行う。
- 12月23日 美川消防署新庁舎が総工費4億9,000万円で完成し、竣工式を行う。

- 平成27年
- 2月12日 無線中継車1台を購入。消防本部に配置
 - 3月 3日 連絡車を白山消防署に配置し、旧車を白峰分署に配置
 - 3月18日 消防ポンプ自動車1台を購入。千代野分署に配置し、旧車を廃車
 - 3月31日 消防長 東 仁司 退任・退職
消防職員3名退職
 - 4月 1日 消防長 畑 昌幸 就任
消防職員4名を採用し、総員203名となる。
白山消防署の救助係を廃止
 - 4月22日 白峰分署高規格救急車を廃車
 - 4月30日 職員1名が退職し、総員202名となる。
 - 8月 2日 野々市指令車を警防車として白峰分署に配置し、旧車を廃車
 - 10月 1日 消防救急デジタル無線設備を総額7億9,000万円で整備し、運用開始
 - 10月 9日 高規格救急車1台を購入。鶴来消防署に配置し、旧車を廃車
 - 12月10日 高規格救急車1台を購入。白峰分署に配置

- 平成28年
- 3月18日 水難機材車1台を購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車
 - 3月31日 消防長 畑 昌幸 退任・退職
消防職員4名退職
 - 4月 1日 消防長 畑 盛仁 就任
消防職員9名を採用し、総員206名となる。
石川県消防学校に1名派遣
 - 12月14日 消防ポンプ自動車1台を購入。美川消防署に配置し、旧車を廃車

- 平成29年
- 3月31日 消防長 畑 盛仁 退任・退職
消防職員2名退職
 - 4月 1日 消防長 増田 充 就任
職員定数を改正し、230人となる。
川北町が当組合に加入することに伴い、川北分署を設置し、松任消防署の分署とする。
消防職員13名を採用し、総員216名となる。
 - 7月31日 消防職員1名退職

平成30年 1月11日 予備ポンプ自動車を廃車
2月27日 機材車1台を購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車
3月 9日 水槽車1台を購入。松任消防署に配置し、化学車を廃車
3月31日 消防長 増田 充 退任・退職
消防職員5名退職
4月 1日 消防長 嶋田 聡 就任
消防職員8名を採用し、総員217名となる。
石川県消防防災航空隊に1名派遣
7月31日 消防職員1名退職
12月26日 高規格救急車1台を購入。野々市消防署に配置し、旧車を予備車とし、旧予備車を廃車

平成31年 1月21日 指揮車1台を購入。消防本部に配置し、旧松任指令車を千代野警防車とし、旧警防車を廃車
3月11日 化学車1台を購入。美川消防署に配置し、旧車を廃車
3月31日 消防長 嶋田 聡 退任・退職
消防職員2名退職
4月 1日 消防長 藤田 武則 就任
消防職員7名を採用し、退職者3名を再任用し、総員223名となる。
令和元年 6月30日 消防職員1名退職
8月31日 消防職員1名退職
消防指令システムを総額7億4,500万円で更新整備し、運用開始
12月15日 消防音楽隊発足35周年記念演奏会を白山市鶴来総合文化会館（クレイン）で開催する。

令和 2年 2月 6日 高規格救急車1台を購入。美川消防署に配置し、旧車を廃車
2月13日 広報車1台を購入。美川消防署に配置し、旧警防車を廃車
3月26日 水槽車1台を購入。野々市消防署に配置し、旧車を廃車
3月31日 消防長 藤田 武則 退任・退職
消防職員6名退職
4月 1日 消防長 谷口 栄一 就任
消防職員4名を採用し、退職者5名を再任用し、総員223名となる。

令和 3年 2月18日 高規格救急車1台を購入。千代野分署に配置し、旧車を廃車
3月 1日 ポンプ車1台を購入。松任消防署に配置し、旧車を廃車
3月 9日 警防車1台を購入。千代野分署に配置し、旧車を廃車

3月31日 消防長 谷口 栄一 退任・退職
消防職員7名退職
石川県消防防災航空隊から1名帰任

4月 1日 消防長 宮下 洋之 就任
消防職員2名を採用し、退職者6名を再任用し、総員223名となる。
石川県消防学校に1名派遣

9月30日 消防職員1名退職

11月20日 松任消防署千代野分署新庁舎が総工費5億5,500万円で完成し、竣工式を行う。

12月 6日 連絡車を購入。消防本部に配置し、旧連絡車を廃車

令和 4年 3月17日 高規格救急車1台を購入。川北分署に配置し、旧車を廃車

3月28日 ポンプ車1台を購入。白峰分署に配置し、旧車を廃車

3月31日 消防長 宮下 洋之 退任・退職
消防職員11名退職し、再任用消防職員3名が任期満了

4月 1日 消防長 篠田 肇 就任
消防職員8名を採用し、退職者5名を再任用し、総員221名となる。

消防組織編

組織及び施設



消防本部・松任消防署・防災学習センター

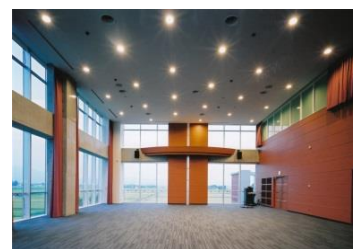
所在地 石川県白山市三浦町255番地1
敷地面積 11,089㎡
延べ面積 6,356㎡（他：訓練塔等1,015㎡）
建築年月 平成22年10月



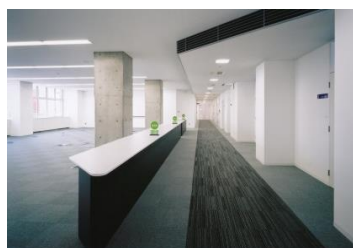
訓練棟



指令センター



白山ホール



消防本部



松任消防署



防災学習センター



松任消防署千代野分署

所在地 石川県白山市北安田町861番地1
敷地面積 3,437㎡
延べ面積 801㎡
建築年月 令和3年11月



松任消防署川北分署

所在地 石川県能美郡川北町字壺ツ屋174番地
(川北町役場に併設)
占有面積 333㎡
建築年月 昭和63年2月



野々市消防署

所在地 石川県野々市市本町五丁目83番地
敷地面積 2,371㎡
延べ面積 818㎡ (他：訓練塔64㎡)
建築年月 平成12年3月



鶴来消防署

所在地 石川県白山市明島町山84番地1
敷地面積 3,271㎡
延べ面積 920㎡
建築年月 平成26年3月



美川消防署

所在地 石川県白山市鹿島町140番地1
敷地面積 2,837㎡
延べ面積 911㎡
建築年月 平成26年12月



白山消防署

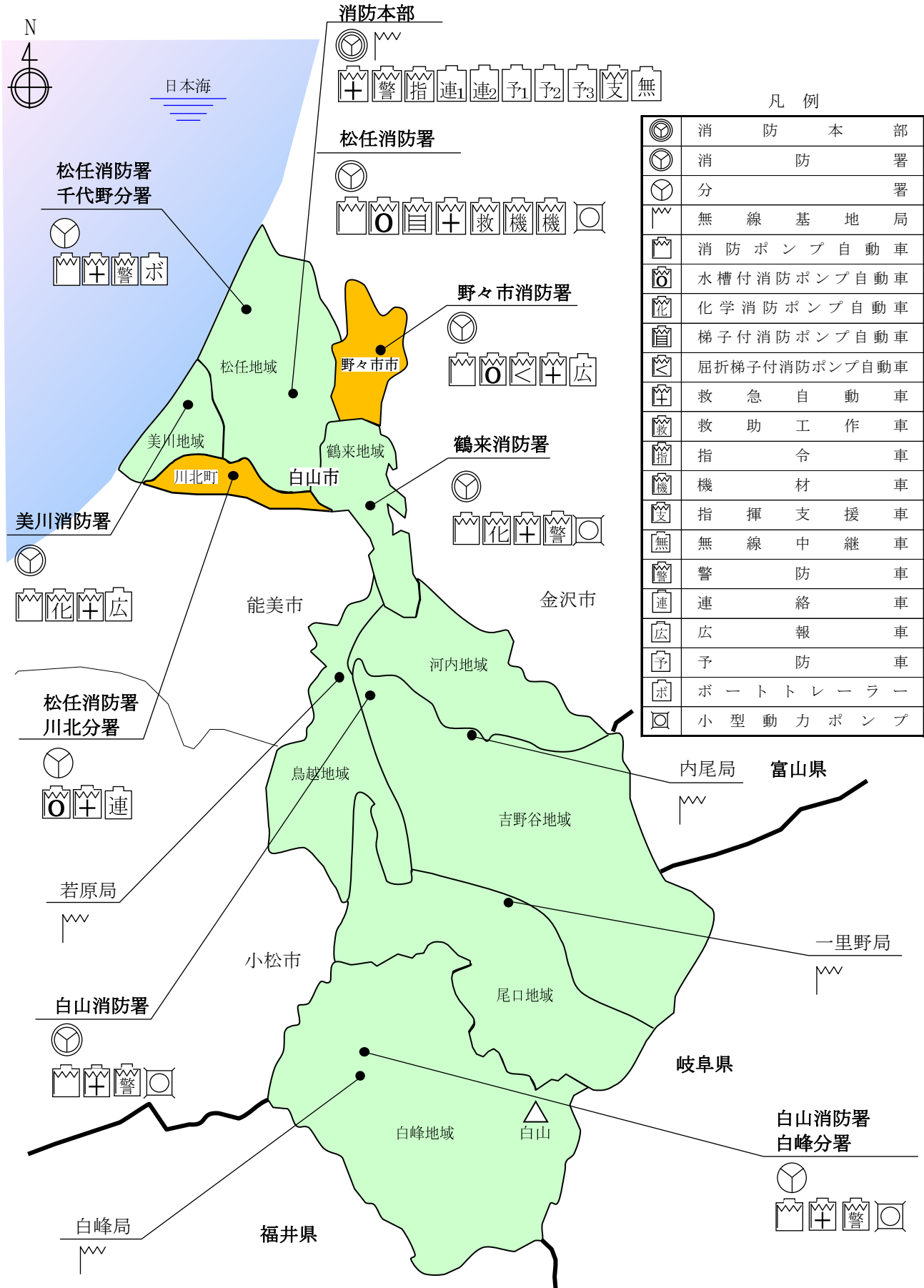
所在地 石川県白山市吉野夏111番地1
敷地面積 2,711㎡
延べ面積 950㎡
建築年月 平成26年12月



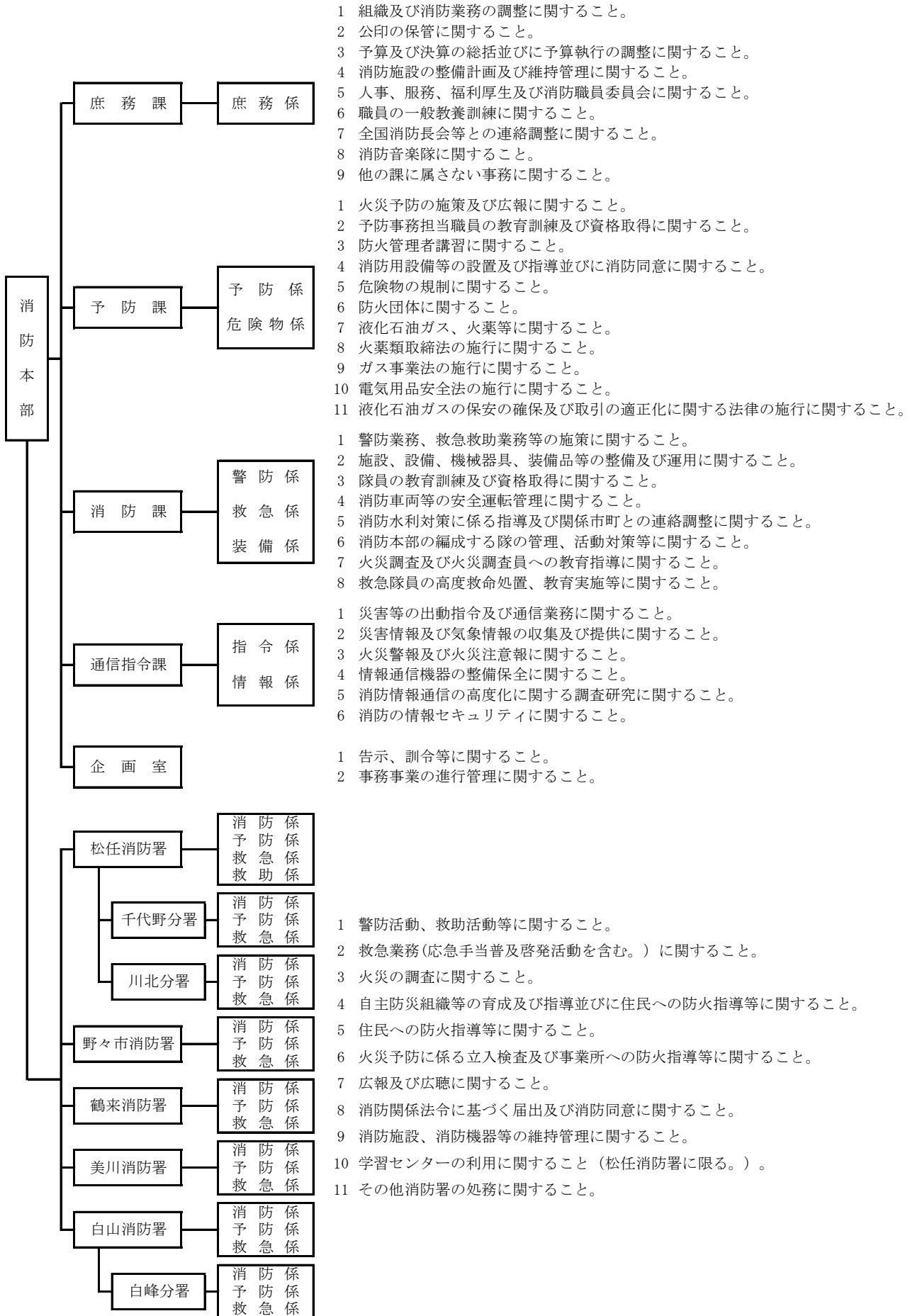
白山消防署白峰分署

所在地 石川県白山市白峰ハ103番地3
敷地面積 573㎡
延べ面積 151㎡
建築年月 平成6年11月

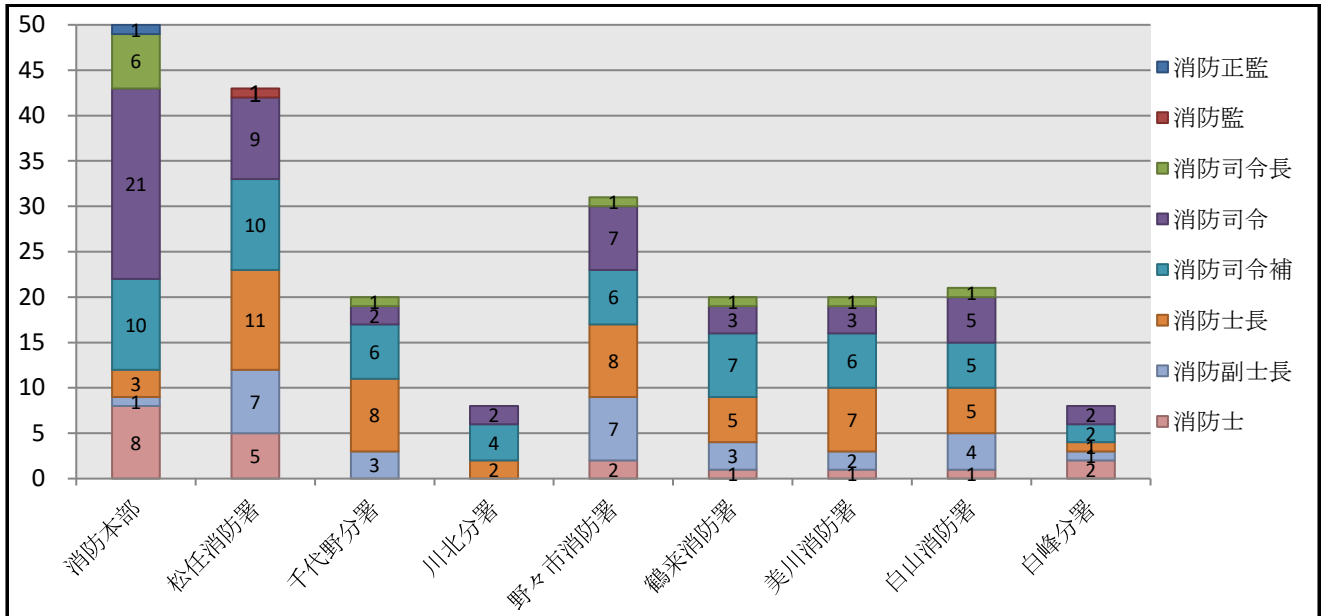
組合消防概況図



組織機構図及び事務分掌



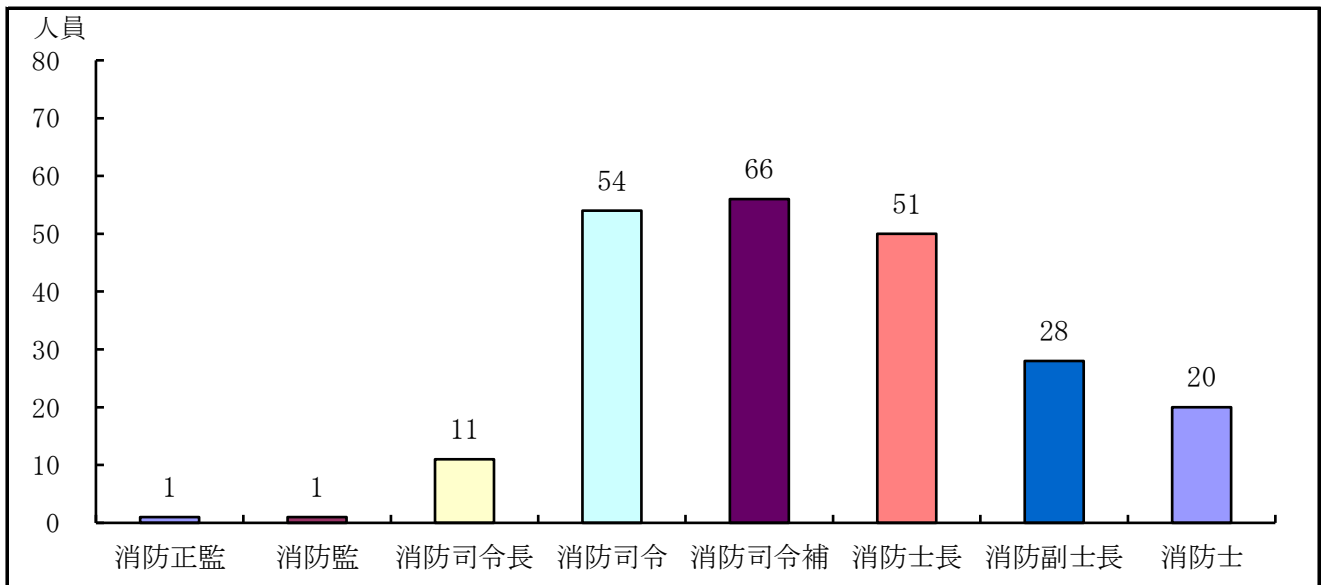
消防職員配置表



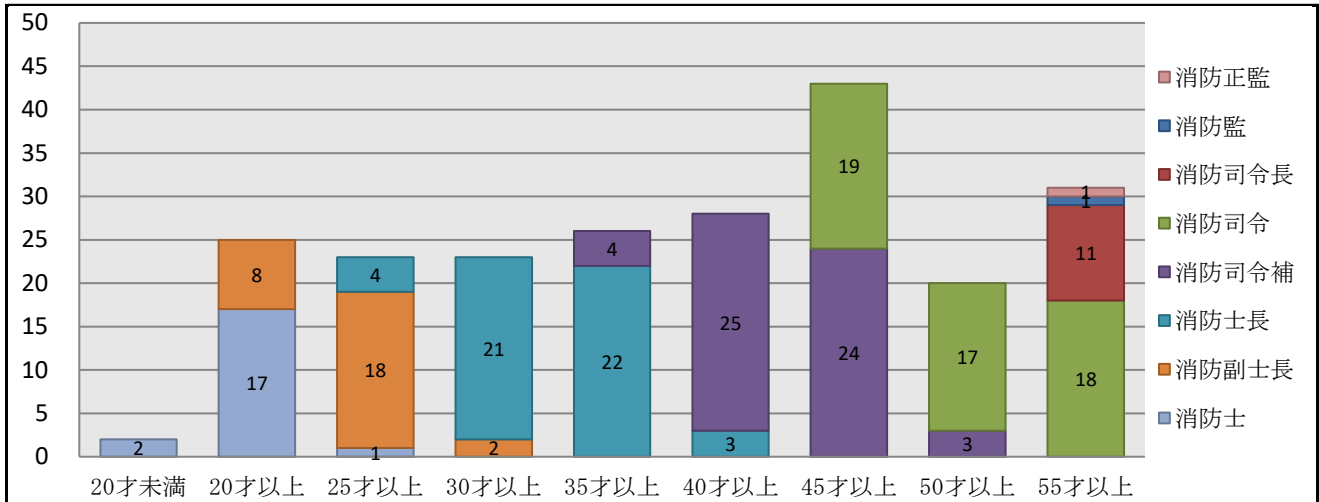
所 属 \ 階 級	合 計	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
合 計	221	1	1	11	54	56	50	28	20
消 防 本 部	50	1		6	21	10	3	1	8
松 任 消 防 署	43		1		9	10	11	7	5
千 代 野 分 署	20			1	2	6	8	3	
川 北 分 署	8				2	4	2		
野 々 市 消 防 署	31			1	7	6	8	7	2
鶴 来 消 防 署	20			1	3	7	5	3	1
美 川 消 防 署	20			1	3	6	7	2	1
白 山 消 防 署	21			1	5	5	5	4	1
白 峰 分 署	8				2	2	1	1	2

※ 職員定数（再任用短時間勤務職員以外の再任用職員を含む。）230人

階級別職員数

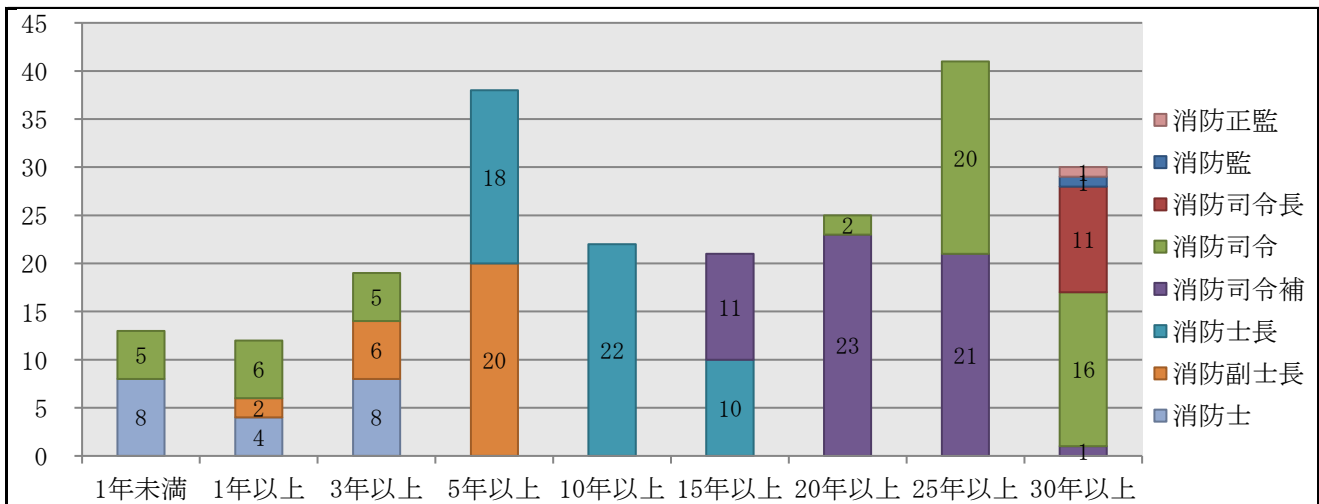


年齢区分別職員数



階級 \ 年齢	合計	20才未満	20才以上	25才以上	30才以上	35才以上	40才以上	45才以上	50才以上	55才以上
合計	221	2	25	23	23	26	28	43	20	31
消防正監	1									1
消防監	1									1
消防司令長	11									11
消防司令	54							19	17	18
消防司令補	56					4	25	24	3	
消防士長	50			4	21	22	3			
消防副士長	28		8	18	2					
消防士	20	2	17	1						

勤続年数別職員数



階級 \ 勤続年数	合計	1年未満	1年以上	3年以上	5年以上	10年以上	15年以上	20年以上	25年以上	30年以上
合計	221	13	12	19	38	22	21	25	41	30
消防正監	1									1
消防監	1									1
消防司令長	11									11
消防司令	54	5	6	5				2	20	16
消防司令補	56						11	23	21	1
消防士長	50				18	22	10			
消防副士長	28		2	6	20					
消防士	20	8	4	8						

消防職員の各種免許・資格取得状況

資格名		人数	資格名		人数	資格名		人数	
自動車運転免許	大型	140	危険物取扱者	甲種	2	予防技術資格者	査察	27	
	大型2種	4		乙種	第1類		12	設備	12
	中型	25			第2類		13	危険物	11
	中型(8t限定)	18			第3類	17	防火対象物点検資格者	4	
	中型2種	3			第4類	156	防災管理点検資格者	3	
	準中型	17		第5類	8	特殊無線技士	第1級陸上特	1	
	普通	20		第6類	11		第2級陸上特	176	
		丙種	54	特技乙	36				
小型船舶操縦士	1級	2	消防設備士	甲種	特類	1	アマチュア無線技士	10	
	2級	29			第1類	6	小型移動式クレーン	52	
救急救命士	救急救命士	56			第2類	1	玉掛	46	
		気管挿管認定			28	第3類	1	ガス溶接技能	10
		薬剤投与認定			42	第4類	12	酸素欠乏・硫化水素	17
		二処置認定		42	第5類	1	アーク溶接	5	
救急課程修了(含I・II課程)		198		乙種	第1類	3	潜水士	40	
准看護師		1	第4類		15	潜水技術2級	26		
AED認定		165	第5類		1	河川急流救助	21		
救急関係資格	救急関係資格	58	第6類		115	富山山岳遭難救助	15		
		ITLS	37	第7類	3	ロープレスキュー	12		
		ACLS	13	電気工事士	第2種	5	毒物劇物取扱者	4	
		ICLS	18	ボイラー技士	2級	1	移動貯蔵タンク定期点検技術者	1	
MCLS	53	衛生管理者	第1種	1	防災士	14			
JPTEC	110	自動車整備士	2級	2	産業廃棄物監督責任者	6			
BLSO	5								

令和4年度白山野々市広域事務組合歳入歳出予算額（当初）

歳入

（単位：千円）

款	項	金額
歳入合計		3,891,548
1 分担金及び負担金		3,192,310
	1 負担金	3,192,310
2 使用料及び手数料		230,648
	1 使用料	5,125
	2 手数料	225,523
3 国庫支出金		0
	1 国庫補助金	0
4 県支出金		0
	1 県補助金	0
5 財産収入		0
	1 財産運用収入	0
	2 財産売却収入	0
6 繰入金		0
	1 基金繰入金	0
7 繰越金		150,000
	1 繰越金	150,000
8 諸収入		185,490
	1 預金利子	0
	2 受託事業収入	3,642
	3 雑収入	181,848
9 組合債		133,100
	1 組合債	133,100

歳出

（単位：千円）

款	項	金額
歳出合計		3,891,548
1 議会費		1,646
	1 議会費	1,646
2 総務費		55,845
	1 組合管理費	55,566
	2 委員会費	279
3 衛生費		1,215,673
	1 保健衛生費	54,407
	2 ごみ処理費	1,062,694
	3 し尿処理費	98,572
4 消防費		2,140,058
	1 消防費	2,140,058
5 公債費		475,826
	1 公債費	475,826
6 予備費		2,500
	1 予備費	2,500

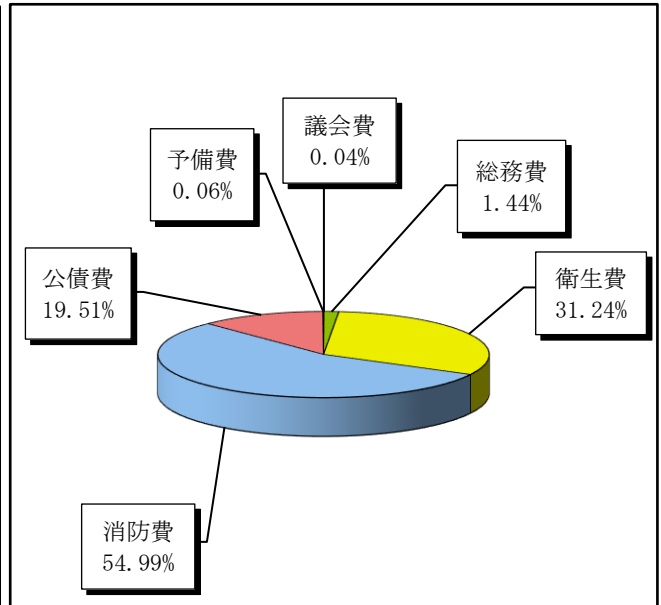
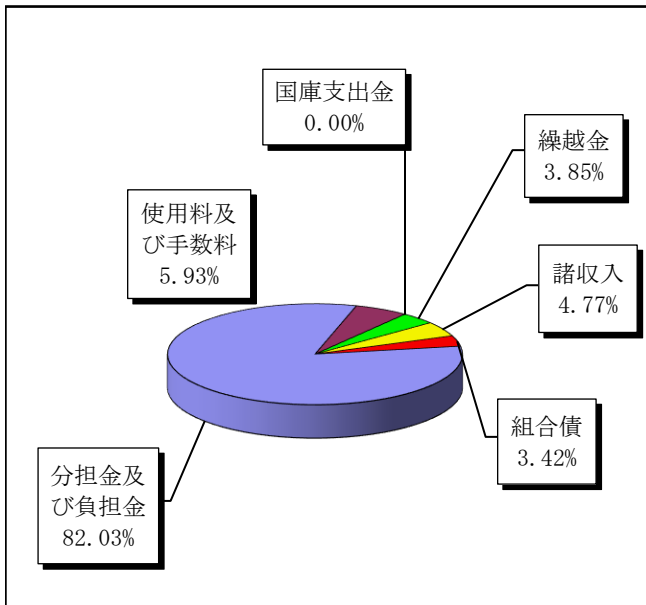
歳入歳出予算額の構成

歳入額比率

歳出額比率

歳入額 38億9,154万8,000円

歳出額 38億9,154万8,000円

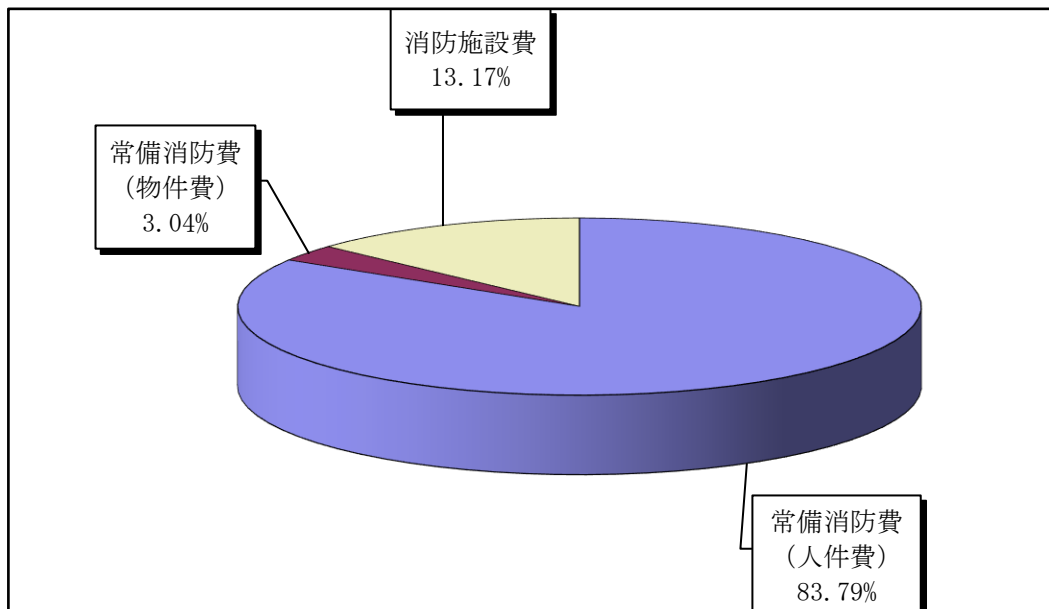


消防費予算性質別比較

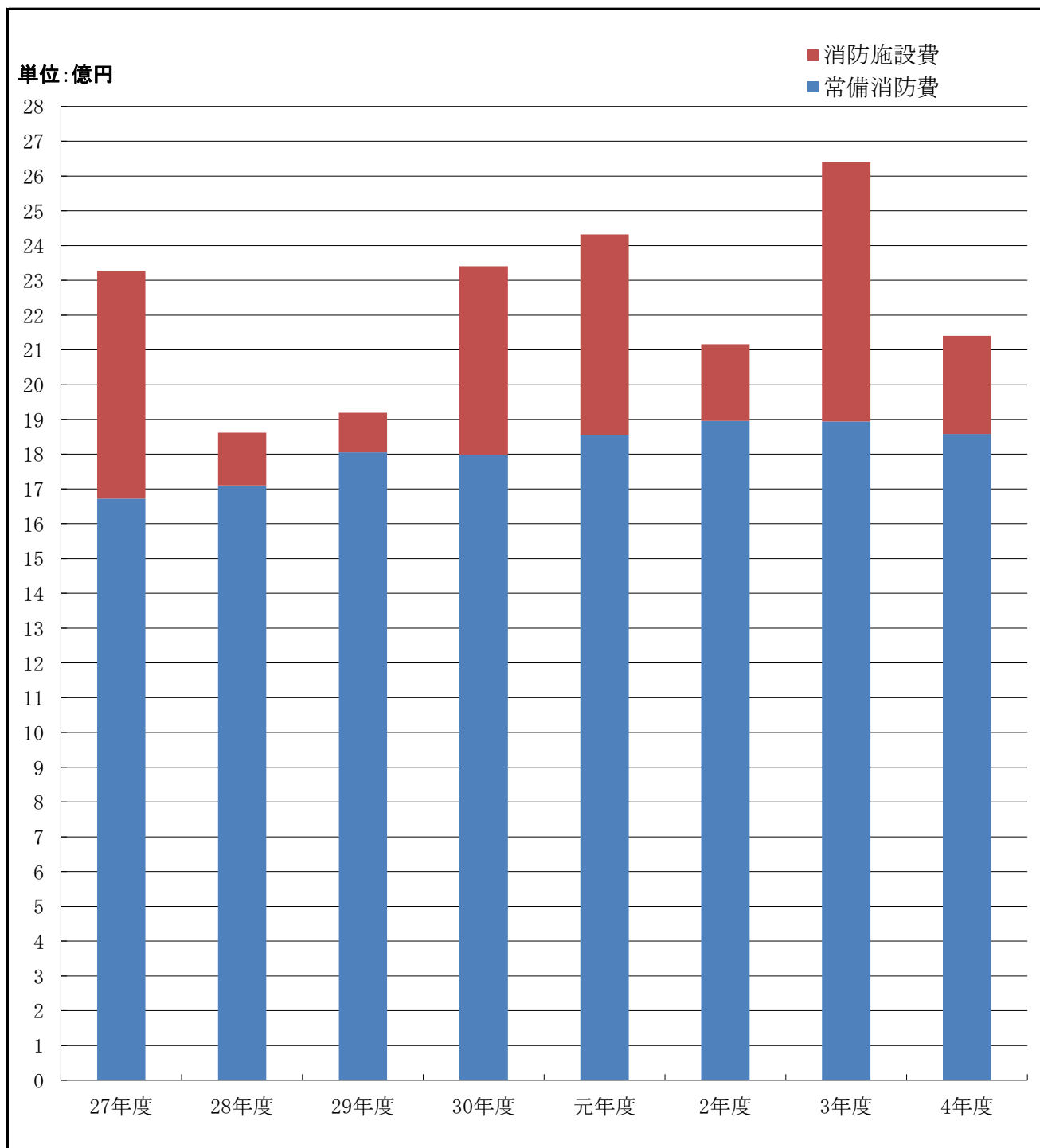
(単位：千円)

消 防 費	常 備 消 防 費		消 防 施 設 費
	人 件 費	物 件 費	
2,140,058	1,793,113	65,030	281,915

消防費 21億4,005万8,000円



消防費当初予算の推移



歳出予算の推移 (当初)

(単位：千円)

年度 歳出項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
消 防 費	2,327,043	1,862,255	1,918,831	2,340,534	2,432,275	2,115,878	2,640,098	2,140,058
常備消防費	1,672,459	1,709,969	1,805,618	1,797,207	1,855,129	1,895,803	1,893,973	1,858,143
消防施設費	654,584	152,286	113,213	543,327	577,146	220,075	746,125	281,915

消 防 施 設 編

車両配置状況

所属	車両名	車両種別	登録年月	車令 (年・月)	社名	ポンプ		緊急消防援助隊 (登録)
						メーカー	級別	
消防本部	予防1号車	予防査察車	H28.09	5.5	トヨタ			
	予防2号車	予防査察車	H17.12	16.3	三菱			
	予防3号車	防火指導車	H15.09	18.5	ダイハツ			
	本部連絡1号車	連絡車	H28.03	6.1	スズキ			
	本部連絡2号車	連絡車	R03.11	0.4	トヨタ			
	本部指揮車	指揮車	H30.12	3.3	トヨタ			都道府県大隊指揮隊
	本部指揮支援車	指揮支援車	H24.04	9.9	トヨタ			都道府県大隊指揮隊
	本部警防車	警防車	H18.09	15.5	トヨタ			
	無線中継車	無線中継車	H27.08	6.7	トヨタ			
	本部救急車	高規格救急車	H22.11	11.4	トヨタ			
松任消防署	松任1号車	CD-I型ポンプ車	R03.02	1.1	日野	モリタ	A2	
	松任タンク車	II型水槽付ポンプ車(水槽2,000ℓ)	H30.02	4.1	日野	長野ポンプ	A2	消火小隊
	松任梯子車	梯子付ポンプ車(35m)	H11.01	23.2	ニッサンディーゼル	日本機械	A2	
	松任救急車	高規格救急車	H25.11	8.4	トヨタ			
	松任救助工作車	II型救助工作車	H23.11	10.4	日野			救助小隊
	松任機材車	資機材搬送車	H30.02	4.1	日野			後方支援小隊
	松任水難機材車	資機材搬送車	H28.03	6.0	日野			
千代野分署	千代野1号車	CD-I型ポンプ車	H27.03	7.1	日野	日本機械	A2	
	千代野救急車	高規格救急車	R03.02	1.1	トヨタ			救急小隊
	千代野警防車	警防車	R03.02	1.1	トヨタ			
	ボートトレーラー	ボートトレーラー	H16.09	17.6	SOLEX			
川北分署	川北タンク車	II型水槽付ポンプ車(水槽2,000ℓ)	H29.03	5.0	日野	モリタ	A2	
	川北救急車	高規格救急車	R04.03	0.1	日産			
	川北連絡車	連絡車	H12.05	21.8	ダイハツ			
野々市消防署	野々市1号車	CD-I型ポンプ車	H21.03	13.0	日野	日本機械	A2	
	野々市タンク車	II型水槽付ポンプ車(水槽2,000ℓ)	R02.03	2.0	日野	モリタ	A2	消火小隊
	野々市梯子車	屈折梯子付ポンプ車(25m)	H20.02	14.1	日野	モリタ	A2	特殊装備小隊
	野々市救急車	高規格救急車	H30.12	3.3	トヨタ			
	野々市広報車	広報車	H23.03	11.1	トヨタ			
鶴来消防署	鶴来1号車	CD-I型ポンプ車	H22.03	12.0	日野	日本機械	A2	
	鶴来化学車	II型化学車(水槽2,000ℓ 薬槽500ℓ)	H17.12	16.3	日野	日本機械	A2	
	鶴来救急車	高規格救急車	H27.10	6.5	トヨタ			
	鶴来警防車	警防車	H20.07	13.7	三菱			
美川消防署	美川1号車	CD-I型ポンプ車	H28.11	5.3	日野	長野ポンプ	A2	
	美川化学車	II型化学車(水槽1,500ℓ 薬槽500ℓ)	H31.03	3.1	日野	日本機械	A2	
	美川救急車	高規格救急車	R02.01	2.2	トヨタ			
	美川広報車	広報車	R02.01	2.2	日産			
白山消防署	白山1号車	CD-I型ポンプ車(救助仕様)	H26.07	7.7	日野	長野ポンプ	A2	
	白山救急車	高規格救急車	H24.10	9.5	トヨタ			
	白山警防車	警防車	H27.02	7.1	トヨタ			
白峰分署	白峰1号車	CD-I型ポンプ車	R04.03	0.0	トヨタ	日本機械	A2	消火小隊
	白峰救急車	高規格救急車	H27.12	6.3	トヨタ			
	白峰警防車	警防車	H17.08	16.7	トヨタ			

資器材一覧表

警防用資器材

分類	品名		総数	本部	松任	千代野	川北	野々市	鶴来	美川	白山	白峰	特救隊	水難隊	山岳隊	化学隊	
ホース及び放水関連器具	ホース	65mm	476		72	49	33	81	74	79	48	40					
		50mm	196		25	19	18	34	30	34	18	16	2				
	ホースカー		10		2	1		2	2	2	1						
	ホース背負具		5				2		1			2					
	ホースバック		22		4	2	2	4	2	6	2						
	管そう	65mm	23		1	1	3	5	5	4	1	3					
		50mm	13			1	1	4	2	3	1	1					
	特殊ノズル	ダブルコントロール	29		8	2	3	6	2	5	2	1					
		フォグガン	3						2			1					
		プロジェクトガン	3						1		1	1					
		無反動ノズル	7				1	1	1	1	2	1					
		CAFSノズル	3		1			1	1								
	クアドラノズル	8		1	1	1	1			3			1				
発泡ノズル	エアフォームノズル等	8				1	1	2	2	1	1						
小型動力ポンプ		4		1				1		1	1						
火林 炎野	ウォーターチャージャー		3						2		1						
	背負式ポンプ	ジェットシューター	52		6	2	2	6	12	5	15	4					
	簡易水槽		9		1	1		1	3	1	1	1					
薬消 剤火	水溶性液体用	メガフォーム	2,120	580		180			660	500	100	100					
	水成膜	サーフウォーター	2,560	700	100		100	1,360		300							
	界面活性泡		520					520									
	界面活性泡 (A火災用)	ミラクルフォームα	490	340	60			50	40								
油理 処剤	油吸着シート (枚)	シートタイプ	417	183	33	27	7	26	32	22	17	50	20				
	油処理剤 (袋)	粒子	29													29	
その 他	AED		6		1	1		1	1	1	1						
	消防車EMセット		7		1	1		1	1	2	1						

救急用資器材

観 察	血中酸素飽和度測定器		9	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	血中一酸化炭素測定器		3		1				1			1				
	血糖値測定器		9	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	患者監視装置	プロバック		1				1								
ダッシュ/ライフスコープ			8	1	1	1		1	1	1	1	1				
呼 吸 ・ 循 環 管 理	自動式人工呼吸器	パラバック	2				1				1					
		アンサー	7	1	1	1		1	1	1		1				
	携帯酸素吸入器		13	1	1	2	2	1	1	2	1	2				
	自動式吸引器		9	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	呼吸二酸化炭素検知器		7	1	1	1	1		1		1	1				
	除細動器	MRX/ZOLL	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	呼吸管理資器材	一式	11	1	1	2	2	1	1	1	1	1				
酸素ポンベ	10ℓ		36	15	2	2	2	4	3	3	2	3				
	2.0ℓ		66	35	3	3	3	7	4	3	4	4				
保創 護傷	陰圧式固定具	バキュームスプリント等	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	外傷処置資器材	一式	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
保 温 ・ 搬 送	ストレッチャー	メイン	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
		エアー	16	2	1	2	1	2	2	3	1	2				
		スクープ	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	固定用担架	バックボード	20	1	2	2	2	2	3	2	3	2	1			
		ショートボード	8		1	1	1	1	1	1	1	1				
通信	携帯電話		8		1	1	1	1	1	1	1					
其 他	救急救命士特定行為資器材	一式	9	1	1	1	1	1	1	1	1					
	在宅医療継続用資器材	一式	5		1	1		1		1	1					

資器材一覧表

救助用資器材

分類	品名		総数	本部	松任	千代野	川北	野々市	鶴来	美川	白山	白峰	特救隊	水難隊	山岳隊	化学隊
一般救助	かぎ付はしご		4		1			1				1	1			
	三連はしご		14		2	1	1	3	2	2	1	1	1			
	救命索発射銃	火薬式・空気式	2										2			
	平担架		2		1								1			
重 排 除 物	油圧ジャッキ	ラムシリンダー	1										1			
	可搬ウインチ	TU-16	7	1					1	1	1	1	1		1	
	マット型空気ジャッキ		1										1			
	大型油圧スプレッダー	油圧スプレッダー	2								1		1			
切 断	油圧切断機	コンビツール	2									1	1			
	エンジンカッター		1										1			
	チェーンソー		3						1		1		1			
	大型油圧切断機	カッター	2								1		1			
破 壊	破壊用工具	万能斧等	41	3	5	3	2	7	5	7	4	3	2			
	携帯用コンクリート破壊器具		1										1			
測 検 定 知	複合ガス測定器	可燃性・毒性	3	1									2			
	放射線測定器	個人線量計を除く	3	2									1			
呼 吸 保 護	空気呼吸器	ボンベ含む	49	3	9	3	4	7	6	7	3	3	4			
	空気ボンベ(予備)	一般複合容器	122	47	8	3	4	16	9	14	4	7	10			
	酸素呼吸器		5										5			
	酸素ボンベ(予備)	2.0ℓ	1		1											
隊 員 保 護	耐電用防護服	耐電衣・ズボン・長靴	4		2								2			
	化学防護服	陽圧式を除く	141			4	3	10	23	12	42	6	6			35
	陽圧式化学防護服		10										5			5
	耐熱服		8		2				2	2						2
検 索	簡易画像探索器	プロカム	1										1			
	熱画像直視装置	アルゴス	1										1			
	夜間暗視装置	ナイトビューア	1										1			
水 難 救 助	ウェットスーツ	一式	14											14		
	BCジャケット	一式	8											8		
	ドライスーツ	一式	6											6		
	フルフェイスマスク	一式	6											6		
	潜水ポンベ		16											16		
	救命胴衣		80	7	7	6	4	9	8	9	12	3	5	10		
	水中投光器		5											5		
	救命浮環・浮標		44		2	1	3	1	2	6	7	3	1	18		
	救命ボート		1											1		
船外機		2											2			
救 山 助 岳	登山器具	一式	15												15	
	バスケットストレッチャー		8		1	1		1	1	1	1		1	1		
	スケッドストレッチャー		2												2	
そ の 他	油圧発生装置	パワーユニット	3								1	1	1			
	投光器	一式	20	5	3	1	1	4	2	2	1	1				
	発電機	可搬式	21	3	2	1	1	3	4	2	3	1	1			
	携帯拡声器		36	5	6	2	2	4	5	4	3	2	2	1		
	除染シャワーテント		2													2
	高压空気充填機	空気呼吸器用	1		1											
その他主な救助資器材 空気式救助マット、救助用支柱器具、ガス溶断器、空気切断機、コンクリート鉄筋切断用チェーンソー、削岩機、送排風機、エアラインマスク、画像探索機（ファイバースコープ）、地中音響探知機																

高機能消防指令センターの機能



無線局設置状況

種別		署別	合計	消防本部	松任消防署	千代野分署	川北分署	野々市消防署	鶴来消防署	美川消防署	白山消防署	白峰分署
無線局合計			180	42	40	10	9	24	14	14	16	11
消防無線	基地局		5	5								
	陸上移動局(車載)		41	7	9	3	2	6	4	4	3	3
	陸上移動局(携帯)		34	6	8	2	2	5	3	3	3	2
	陸上移動局(可搬型)		4	2							1	1
	陸上移動局(卓上型)		8		1	1	1	1	1	1	1	1
	陸上移動局(署活)		80	14	22	4	4	12	6	6	8	4
	陸上移動局(防災相互)		7	7								
地球局(県防災無線)			1	1								
受令機	消防無線用		11	2	2	1	1	1	1	1	1	1

通信施設設置状況

種別		署別	合計	消防本部	松任消防署	千代野分署	川北分署	野々市消防署	鶴来消防署	美川消防署	白山消防署	白峰分署
119回線	固定119番		4	4								
	携帯119回線		2	2								
	携帯119転送発信		1	1								
	携帯119転送受信		1	1								
	加入回線(指令台発信用)		1	1								
	メール119受信		1	1								
	Net119受信		1	1								
	119回線(非常用衛星経由)		7	1			1	1	1	1	1	1
指令回線			8	1		1	1	1	1	1	1	1
位置情報	IP-VPN		2	2								
	専用線		2	2								
出場車両管理	親局		1	1								
	AVM		36	6	8	3	2	4	4	3	3	3
白山市直通電話			1	1								
野々市市直通電話			1					1				
石川県土木総合事務所連絡用			2								1	1
警察署直通電話			1	1								
高速道路直通電話			1	1								
住民案内加入回線			4	4								
順次指令加入電話			5	5								
石川県総合防災情報			1	1								
消防団FAX指令			1	1								
消防OA用回線			8	1		1	1	1	1	1	1	1
職員・団指令メール			1	1								
現場映像受信			1	1								
事務用電話回線	INS		15	8		1	1	1	1	1	1	1
	アナログ		1	1								
移動(携帯)電話			20	2	3	2	2	3	2	2	2	2
移動(衛星)電話			2								1	1

予 防 編

火災予防運動

火災の起こりやすい時季に火災予防運動を展開することで、地域住民により一層の防火を呼びかけ、火災発生の防止に努めている。

令和4年度中の主な火災予防運動

- 危険物安全週間 6月5日～6月11日
- 防災週間 8月30日～9月5日
- 119番の日 11月9日
- 秋の火災予防運動 11月9日～11月15日
- 年末特別火災予防運動 12月27日～12月31日
- 文化財防火デー 1月26日
- 春の火災予防運動 3月20日～3月26日
- 山火事予防運動 3月20日～3月26日
- 車両火災予防運動 3月20日～3月26日

令和4年度 全国統一防火標語

『 お出かけは マスク戸締り 火の用心 』

令和4年度 危険物安全週間推進標語

『 一連の 確かな所作で 無災害 』

防火・防災組織の現況

◇ 消防クラブ(幼年・子ども・女性)の活動

幼年消防クラブ及び子ども消防クラブは、幼・少年期に防火に関する知識を養うことを目的に結成され、その活動は、地域の火災予防思想の普及にも貢献している。

女性防火クラブは、家庭で火気を取り扱う機会の多い女性が、その活動をとおし、火災予防や初期消火・通報・避難方法等について会得し、また地域の協力体制と連帯意識の強化を図ることにより、家庭での火災を予防するとともに、平和で安全な地域社会づくりを目指して活動している。

◇ 白山野々市防火安全協会

白山野々市防火安全協会は、事業所相互が連携することで、一層の防火管理の徹底を図ることを目的に設立された組織で、各種事業を通じて、事業所はもとより地域社会の防火安全にも貢献している。

◇ 消防クラブ数

区分 署・分署	幼年消防クラブ		子ども消防クラブ		女性防火クラブ		
	クラブ数	クラブ員数	クラブ数	クラブ員数	クラブ数	クラブ員数	
合計	59	4,924	51	1,358	6	51	
白 山 市		37	4,094	47	910	4	28
	松任消防署	14	1,991	15	376		
	千代野分署	8	596	7	136	4	28
	鶴来消防署	8	1,055	9	137		
	美川消防署	3	356	14	253		
	白山消防署	3	86	2	8		
	白峰分署	1	10				
野々市市	野々市消防署	19	587	1	25	2	23
川北町	川北分署	3	243	3	423		

白山野々市防火安全協会会員事業所数

99

中高層建築物の現況

用途別

防火対象物の区分		合計	3階	4階	5階	6階	7階	8階	9階	10階以上
合 計		1,223	858	205	76	46	21	10	3	4
(一)	イ 劇場・映画館・演芸場又は観覧場	1		1						
	ロ 公会堂又は集会場	4	2		2					
(二)	イ キャバレー・カフェー・ナイトクラブ類									
	ロ 遊技場又はダンスホール	2			1	1				
	ハ 風俗関連特殊営業店舗等									
	ニ カラオケボックス等									
(三)	イ 待合・料理店類									
	ロ 飲食店	5	4	1						
(四)	百貨店・マーケット・店舗又は展示場	17	15	2						
(五)	イ 旅館・ホテル又は宿泊所	25	12	3	3	4	1	1	1	
	ロ 寄宿舎・下宿又は共同住宅	571	399	90	41	20	12	5	2	2 ^(11-12F)
(六)	イ 病院・診療所又は助産所	20	13	4	2		1			
	ロ 養護老人ホーム等	27	16	8		3				
	ハ 老人福祉センター・保育所等	6	2	3	1					
	ニ 幼稚園又は特別支援学校	2	2							
(七)	小学校・中学校・高等学校・各種学校類	64	29	28	5	1				1 ^(12F)
(八)	図書館・博物館・美術館類									
(九)	イ 蒸気浴場・熱気浴場類									
	ロ イ以外の公衆浴場	1	1							
(十)	車両の停車場									
(十一)	神社・寺院・教会類	3	3							
(十二)	イ 工場又は作業場	100	69	17	7	2	1	3		1
	ロ 映画スタジオ又はテレビスタジオ									
(十三)	イ 自動車車庫又は駐車場									
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫									
(十四)	倉庫	33	25	5	2		1			
(十五)	前各項に該当しない事業場	140	107	21	7	4	1			
(十六)	イ 特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	122	88	17	2	10	4	1		
	ロ イ以外の複合用途防火対象物	78	69	5	3	1				
(十七)	重要文化財	2	2							

署・分署別

区 分		合計	3階	4階	5階	6階	7階	8階	9階	10階以上
合 計		1,223	858	205	76	46	21	10	3	4
白 山 市		574	415	94	30	16	11	5	2	1
	松 任 消 防 署	339	240	59	17	11	9	1	2	
	千 代 野 分 署	91	70	15	4	1		1		
	鶴 来 消 防 署	66	46	9	3	3	2	2		1
	美 川 消 防 署	31	24	5	1			1		
	白 山 消 防 署	31	24	5	2					
	白 峰 分 署	16	11	1	3	1				
野々市市	野々市消防署	623	431	100	43	30	10	5	1	3 ^(11-12F)
川北町	川北分署	26	12	11	3					

年度統計

広報活動及び防火指導

さまざまな機会を捉え広報活動や防火指導を行い、地域住民の防火への関心が一層深まるように努めている。

住宅用火災警報器の普及とともに住宅火災の死者は減少傾向にあるが、さらなる設置徹底及び維持管理のための各種取組を展開している。

区分 署・分署	合計	白山市						野々市市	川北町	
		松任消防署	千代野分署	鶴来消防署	美川消防署	白山消防署	白峰分署	野々市消防署	川北分署	
街頭広報	301	226	19	33	43	87	22	22	56	19
放送広報	62	40	4	3	6	25	1	1	12	10
紙面広報	25	10	2	2			3	3		15
対象物防火指導	32	23	5		7	5	3	3	6	3
対象物訓練指導	76	40	13	4	5	10	4	4	27	9
地域防火指導	13	11	8		2	1			2	
地域訓練指導	2	2		1		1				
一般家庭防火指導	150									150

防火対象物の数

(150㎡以上)

防火対象物の区分		署・分署	合 計	白 山 市						野々市市	川北町	
				松 任 消 防 署	千 代 野 分 署	鶴 来 消 防 署	美 川 消 防 署	白 山 消 防 署	白 峰 分 署	野 々 市 消 防 署	川 北 分 署	
合 計			7,217	4,210	2,170	622	651	405	267	95	2,731	276
(一)	イ	劇場・映画館・演芸場又は観覧場	8	8	2		5	1				
	ロ	公会堂又は集会場	105	68	23	14	13	11	6	1	22	15
(二)	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ類										
	ロ	遊技場又はダンスホール	16	6	4		2				10	
	ハ	風俗関連特殊営業店舗等										
	ニ	カラオケボックス等	2	1	1						1	
(三)	イ	待合・料理店類	8	7	4		1	2				1
	ロ	飲食店	143	76	46	6	6	5	11	2	67	
(四)		百貨店・マーケット・店舗又は展示場	343	158	89	18	33	13	5		179	6
(五)	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	94	91	14	1	14	5	39	18	3	
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	1,955	578	357	149	41	15	9	7	1,367	10
(六)	イ	病院・診療所又は助産所	102	53	28	12	4	8	1		47	2
	ロ	養護老人ホーム等	77	53	17	14	9	5	7	1	23	1
	ハ	老人福祉センター・保育所等	127	84	39	15	13	13	4		40	3
	ニ	幼稚園又は特別支援学校	12	6	2	2	2				6	
(七)		小学校・中学校・高等学校・各種学校類	143	90	48	16	8	4	12	2	49	4
(八)		図書館・博物館・美術館類	29	25	5		4	3	7	6	4	
(九)	イ	蒸気浴場・熱気浴場類	1								1	
	ロ	イ以外の公衆浴場	11	9		3			5	1	2	
(十)		車両の停車場	3	2	1		1				1	
(十一)		神社・寺院・教会類	84	60	12	20	12	9	3	4	15	9
(十二)	イ	工場又は作業場	1,344	1,090	646	133	168	115	20	8	165	89
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ	1	1	1							
(十三)	イ	自動車車庫又は駐車場	65	51	28	4	10	4	4	1	11	3
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫										
(十四)		倉庫	777	547	298	70	85	70	18	6	161	69
(十五)		前各項に該当しない事業場	1,107	773	336	101	153	78	84	21	291	43
(十六)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	411	227	112	19	40	27	19	10	171	13
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	235	134	55	25	25	16	12	1	93	8
(十七)		重要文化財	14	12	2		2	1	1	6	2	

予防査察の数

(延回数)

署・分署 防火対象物の区分		合 計	白 山 市						野々市市	川北町		
			松 任 消 防 署	千 代 野 分 署	鶴 来 消 防 署	美 川 消 防 署	白 山 消 防 署	白 峰 分 署	野 々 市 消 防 署	川 北 分 署		
合 計		589	383	142	74	85	44	20	18	136	70	
(一)	イ	劇場・映画館・演芸場又は観覧場	5	5			5					
	ロ	公会堂又は集会場	23	22	15	3		4		1		
(二)	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ類										
	ロ	遊技場又はダンスホール	5	3	3					2		
	ハ	風俗関連特殊営業店舗等										
	ニ	カラオケボックス等										
(三)	イ	待合・料理店類										
	ロ	飲食店	20	14	4	1	1	4	3	1	6	
(四)		百貨店・マーケット・店舗又は展示場	94	59	38	9	6	5	1		31	4
(五)	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	18	18	4		3	1	2	8		
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	56	27	5	6	16				28	1
(六)	イ	病院・診療所又は助産所	9	5	3		2				4	
	ロ	養護老人ホーム等	17	16	10	2	2	1	1		1	
	ハ	老人福祉センター・保育所等	15	9	5	1	3				4	2
	ニ	幼稚園又は特別支援学校	8	3			3				5	
(七)		小学校・中学校・高等学校・各種学校類	15	14	6		8				1	
(八)		図書館・博物館・美術館類	5	3				3			2	
(九)	イ	蒸気浴場・熱気浴場類										
	ロ	イ以外の公衆浴場	1								1	
(十)		車両の停車場	1	1			1					
(十一)		神社・寺院・教会類	34	22		7	8	4	1	2	4	8
(十二)	イ	工場又は作業場	66	46	9	23	6	4	1	3	3	17
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ										
(十三)	イ	自動車車庫又は駐車場	8	6	1	1	2		2			2
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫										
(十四)		倉庫	57	33	14	10	2	7			3	21
(十五)		前各項に該当しない事業場	47	25	5	5	8	2	5		11	11
(十六)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	69	42	20	3	4	7	4	4	25	2
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	14	8		3	3	2			4	2
(十七)		重要文化財	2	2			2					

建築同意事務処理状況

建築物の新築や増改築等を行う場合は、建築基準法により消防長等の「同意」が必要である。
この制度は、防火の専門的な立場である消防機関が、建築物の防火に関する法令の規定を踏まえ、建築物の火災予防について設計の段階から関与し、建築物の安全性を高めることを目的としている。

防火対象物の区分		署・分署	合 計	白 山 市						野々市市	川北町	
				松 任 消 防 署	千 代 野 分 署	鶴 来 消 防 署	美 川 消 防 署	白 山 消 防 署	白 峰 分 署	野 々 市 消 防 署	川 北 分 署	
合 計			227	126	88	22	7	8	1		93	8
(一)	イ	劇場・映画館・演芸場又は観覧場										
	ロ	公会堂又は集会場	1								1	
(二)	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ類										
	ロ	遊技場又はダンスホール										
	ハ	風俗関連特殊営業店舗等										
	ニ	カラオケボックス等										
(三)	イ	待合・料理店類										
	ロ	飲食店	1	1		1						
(四)		百貨店・マーケット・店舗又は展示場	13	7	5		1		1		6	
(五)	イ	旅館・ホテル又は宿泊所										
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	44	12	3	9					32	
(六)	イ	病院・診療所又は助産所	6	1			1				5	
	ロ	養護老人ホーム等	5	5	3		1	1				
	ハ	老人福祉センター・保育所等	3	3	3							
	ニ	幼稚園又は特別支援学校										
(七)		小学校・中学校・高等学校・各種学校類										
(八)		図書館・博物館・美術館類										
(九)	イ	蒸気浴場・熱気浴場類										
	ロ	イ以外の公衆浴場										
(十)		車両の停車場	2	2		2						
(十一)		神社・寺院・教会類										
(十二)	イ	工場又は作業場	23	17	12	2	1	2			1	5
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ										
(十三)	イ	自動車車庫又は駐車場	10	1			1				8	1
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫										
(十四)		倉庫	17	13	9	1	1	2			2	2
(十五)		前各項に該当しない事業場	16	9	8			1			7	
(十六)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	10	1	1						9	
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	3	1	1						2	
(十七)		重要文化財										
その他			73	53	43	7	1	2			20	
計画通知			8	7	4	2		1			1	
確認通知			812	517	205	115	139	58			263	32

防火管理者選任状況

消防法では、多数の人を収容する防火対象物の管理について権原を有する者に対して、防火管理者を選任し、その防火管理者に消防計画を作成させ、防火管理上必要な業務を行わせることを義務付けている。

防火対象物の区分			合 計	白 山 市						野々市市	川北町	
				松 任 消 防 署	千 代 野 分 署	鶴 来 消 防 署	美 川 消 防 署	白 山 消 防 署	白 峰 分 署	野 々 市 消 防 署	川 北 分 署	
防火管理者選任届出防火対象物			1,505	904	419	118	144	94	97	32	543	58
(一)	イ	劇場・映画館・演芸場又は観覧場	2	2			1	1				
	ロ	公会堂又は集会場	96	61	22	13	10	11	4	1	22	13
(二)	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ類										
	ロ	遊技場又はダンスホール	14	6	4		2				8	
	ハ	風俗関連特殊営業店舗等										
	ニ	カラオケボックス等	2	1	1						1	
(三)	イ	待合・料理店類	8	7	4		1	2				1
	ロ	飲食店	126	62	38	4	7	2	10	1	64	
(四)		百貨店・マーケット・店舗又は展示場	258	110	53	17	25	10	5		143	5
(五)	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	65	62	11	1	11	1	29	9	3	
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	73	27	18	8		1			41	5
(六)	イ	病院・診療所又は助産所	30	16	7	4	2	3			13	1
	ロ	養護老人ホーム等	64	41	15	9	7	3	6	1	22	1
	ハ	老人福祉センター・保育所等	88	56	25	10	10	8	3		29	3
	ニ	幼稚園又は特別支援学校	9	6	2	2	2				3	
(七)		小学校・中学校・高等学校・各種学校類	57	36	17	6	5	4	4		17	4
(八)		図書館・博物館・美術館類	18	15	4		1	3	4	3	3	
(九)	イ	蒸気浴場・熱気浴場類	1								1	
	ロ	イ以外の公衆浴場	5	3		2			1		2	
(十)		車両の停車場										
(十一)		神社・寺院・教会類	29	23	7	1	5	4	2	4	5	1
(十二)	イ	工場又は作業場	115	92	65	10	9	7		1	13	10
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ	1	1	1							
(十三)	イ	自動車車庫又は駐車場										
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫										
(十四)		倉庫	23	19	10	3	2	4			3	1
(十五)		前各項に該当しない事業場	166	114	47	15	26	16	8	2	50	2
(十六)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	222	118	56	9	16	13	16	8	94	10
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	26	21	11	4		1	4	1	4	1
(十七)		重要文化財	7	5	1		2		1	1	2	
防火管理者を必要とする防火対象物			1,686	968	463	127	152	94	98	34	658	60

各届出等受理状況

消防業務を行う上で必要な情報を得るため、消防法や火災予防条例では、特定の行為者に対して、その行為内容についての届出を指導している。

区分	管轄署	合計	白 山 市						野々市市	川北町	予 防 課
			松 任 消 防 署	千 代 野 分 署	鶴 来 消 防 署	美 川 消 防 署	白 山 消 防 署	白 峰 分 署	野 々 市 消 防 署	川 北 分 署	
消防用設備等着工届		143									143
消防用設備等設置届		391									391
防火・防災管理者選任・解任届		556	401	306	28	28	18	16	5	140	15
統括防火・防災管理者選任・解任届		3	3	3							
消防計画作成(変更)届		634	450	316	34	44	29	21	6	170	14
全体についての消防計画作成(変更)届		3	3	3							
消火・避難訓練通報		928	543	234	98	70	85	49	7	340	45
消防用設備等点検結果報告		2,764	1,549	680	234	265	162	143	65	1,089	126
防火対象物点検結果報告		167	98	48	15	16	11	4	4	59	10
防火対象物点検結果報告特例申請		3	2	2						1	
防災管理対象物点検結果報告		11	10	6	2	2					1
防災管理対象物点検結果報告特例申請											
自衛消防組織設置(変更)届		8	8	5	3						
圧縮アセチレンガス等の貯蔵又は取扱い届		58	27	16	4	2	1	4		28	3
防火対象物使用開始届		323	169	76	40	26	12	12	3	130	24
炉・ボイラー等設置届		47	29	14	6	5		4		15	3
発電・変電・蓄電池設置届		93	63	25	10	12	9	7		16	14
ネオン管灯設置届											
水素ガスを充てんする気球の設置届		1	1	1							
火災とまぎらわしい煙等届		313	251	93	24	56	57	17	4	48	14
煙火打上げ・仕掛け設置届		2	2	1	1						
催物開催届		3	2			1			1	1	
用水・水道の断水・減水届		1	1						1		
道路工事届		20	3		1		2				17
露店等の開設届		30	9	1		4	2	2		20	1
少量・指定貯蔵取扱い届		88	67	18	14	21	6	7	1	5	16
少量・指定貯蔵取扱い廃止届		34	28	11	3	1	3	10		4	2

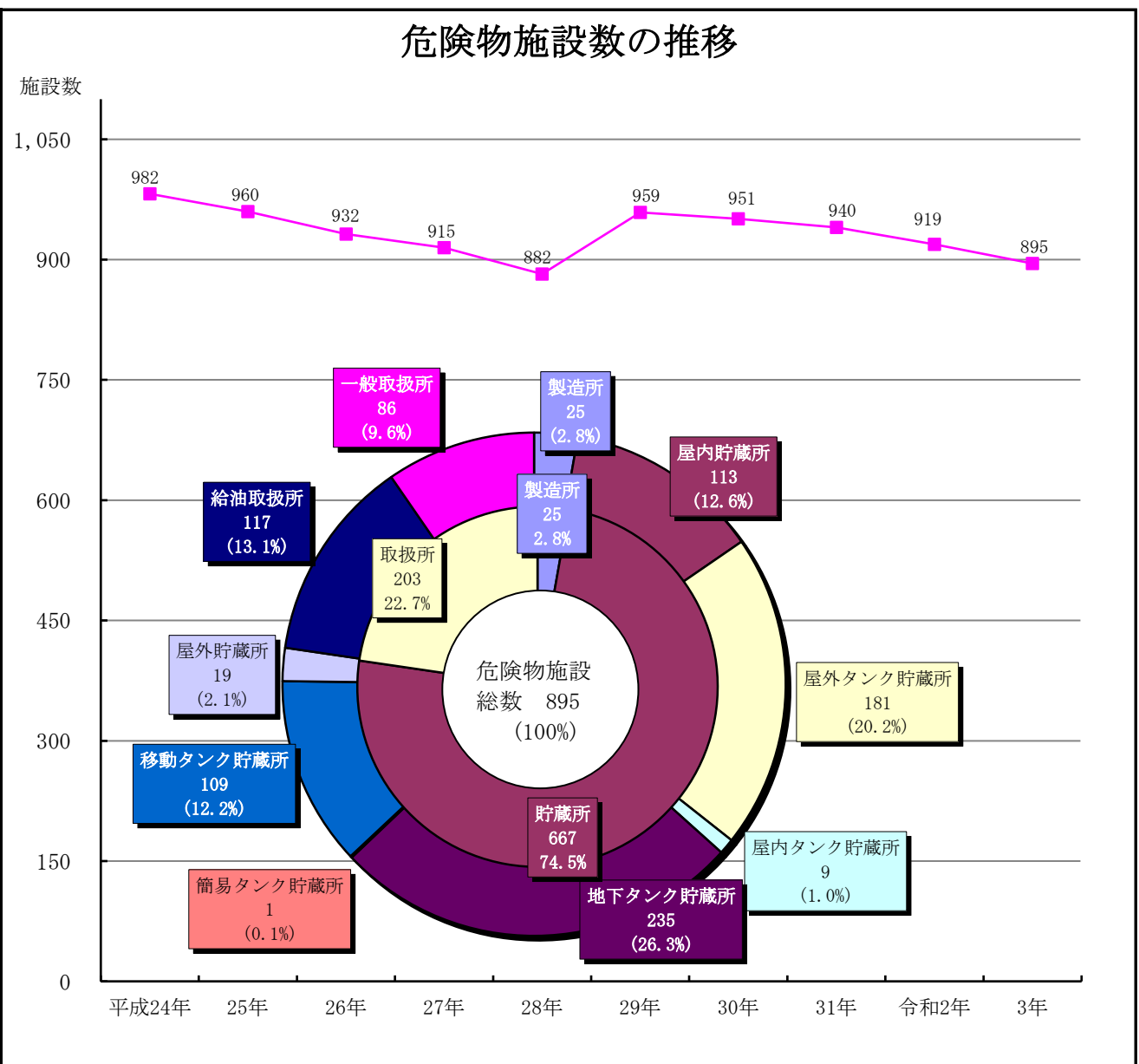
危険物規制

危険物による災害の発生を防止するため、一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う場合は、消防法により、その位置、構造及び設備を一定の基準に適合させ、危険物施設としての許可を受けなければならないほか、その施設の使用にあたっては、完成検査を受けなければならない。施設を変更する場合も同様としなければならない。

危険物施設において貯蔵、取扱いが消防法令どおりに行われているかを定期的に検査し、事故の防止を図っている。



危険物施設数の推移



※ 平成29年に危険物施設数が増加した理由は、川北町の編入によるものです。

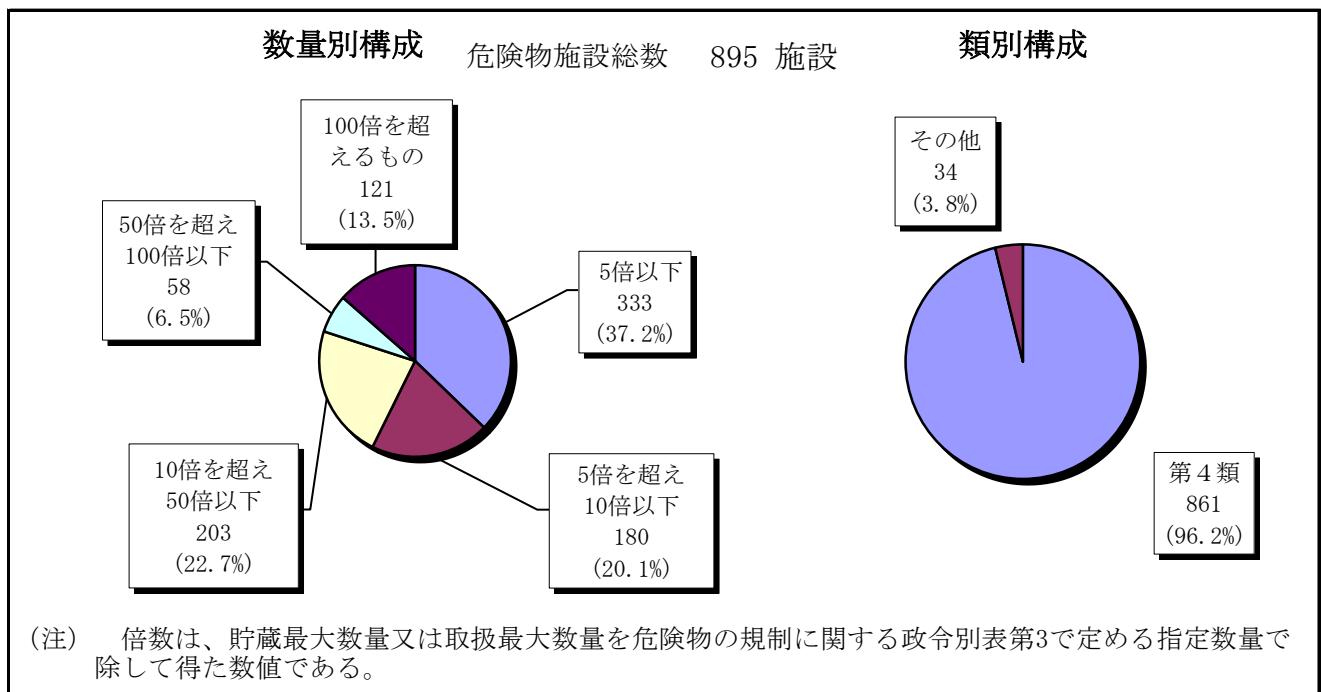
※ 各区分のパーセントの合計は、四捨五入の関係上100パーセントにならない場合があります。

危険物施設数

施設の区分 署・分署	合計	白山市							野々市市	川北町
		松任消防署	千代野分署	鶴来消防署	美川消防署	白山消防署	白峰分署	野々市消防署	川北分署	
合計	895	711	250	189	86	97	59	30	101	83
製造所	25	25	1	14	1	9				
貯蔵所	667	533	185	148	60	66	47	27	71	63
屋内貯蔵所	113	89	51	19	8	8	2	1	11	13
屋外タンク貯蔵所	181	167	24	89	3	46	5		1	13
屋内タンク貯蔵所	9	5		4			1		3	1
地下タンク貯蔵所	235	181	74	15	36	9	30	17	39	15
簡易タンク貯蔵所	1	1	1							
移動タンク貯蔵所	109	71	30	17	12	1	9	2	17	21
屋外貯蔵所	19	19	5	4	1	2		7		
取扱所	203	153	64	27	25	22	12	3	30	20
給油取扱所	117	85	43	14	14	6	7	1	22	10
一般取扱所	86	68	21	13	11	16	5	2	8	10
少量危険物貯蔵取扱所	1,333	1,054	474	118	172	105	125	60	201	78
指定可燃物貯蔵取扱所	176	134	63	24	10	36		1	16	26

危険物施設の規模及び種別

施設の区分 規模及び種別		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所				
				屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所			
完成検査済証交付施設数		895	25	667	113	181	9	235	1	109	19	203	117	86	
数 量 別	5倍以下	333		296	49	20	6	138	1	79	3	37	3	34	
	5倍を超え10倍以下	180	1	142	30	33	3	61		5	10	37	14	23	
	10 " 50 "	203	2	135	21	78		28		2	6	66	46	20	
	50 " 100 "	58	3	41	2	11		5		23		14	8	6	
	100 " 150 "	21	1	13		11		2				7	7		
	150 " 200 "	15	1	8	1	7						6	5	1	
	200 " 1,000 "	76	14	26	4	21		1				36	34	2	
	1,000 " 5,000 "	9	3	6	6										
	5,000 " 10,000 "														
	10,000倍を超えるもの														
類 別	第 1 類														
	第 2 類	3		3		3									
	第 3 類	1		1	1										
	第 4 類	861	11	649	99	177	9	235	1	109	19	201	117	84	
	第 5 類	1		1	1										
	第 6 類	1		1		1									
	混 在	28	14	12	12							2		2	



※ 各区分のパーセントの合計は、四捨五入の関係上100パーセントにならない場合があります。

危険物施設許可・検査の状況

項目	施設の区分	合計	製造所	貯蔵所						取扱所		
				屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	給油取扱所	一般取扱所
許可事項		122	52	3	8		6		4	2	31	16
設置許可		9		1	2		1		2	2	1	
変更許可		113	52	2	6		5		2		30	16
検査事項		113	44	6	8		6		4	2	28	15
完成検査		11		2	1		1		2	2	1	2
変更完成検査		102	44	4	7		5		2		27	13
届出事項		277	22	31	67		25		22	4	86	20
品名・数量変更届		11	3	6	1							1
譲渡引渡届		5					2		3			
廃止届		32		2	2		14		6	1	4	3
各種届出		107	9	1	11		5		13		64	4
保安監督者選任・解任届		122	10	22	53		4			3	18	12
承認事項		97	52	1	6		1				27	10
仮貯蔵・仮取扱承認		5										

液体危険物タンクの完成検査前検査の状況

合計	水張検査			水圧検査				
	10kℓ以下	10kℓを超え1000kℓ以下		600ℓ以下	600ℓを超え10kℓ以下	10kℓを超え20kℓ以下	20kℓを超え30kℓ以下	30kℓを超える
8	5	4	1	3		3		

危険物施設の立入検査状況

(延回数)

施設の区分 署・分署	合 計	白 山 市							野々市市	川北町
		松 任 消 防 署	千 代 野 分 署	鶴 来 消 防 署	美 川 消 防 署	白 山 消 防 署	白 峰 分 署	野 々 市 消 防 署	川 北 分 署	
合 計	199	135	22	17	20	37	29	10	16	48
製 造 所	5	5				5				
貯 蔵 所	154	103	18	17	13	27	20	8	15	36
屋 内 貯 蔵 所	7	1	1							6
屋外タンク貯蔵所	36	27				23	4			9
屋内タンク貯蔵所										
地下タンク貯蔵所	30	26	8	1	3	2	7	5	1	3
簡易タンク貯蔵所										
移動タンク貯蔵所	79	47	9	16	10	1	9	2	14	18
屋 外 貯 蔵 所	2	2				1		1		
取 扱 所	40	27	4		7	5	9	2	1	12
給 油 取 扱 所	24	18	3		7	1	6	1	1	5
一 般 取 扱 所	16	9	1			4	3	1		7
少量危険物貯蔵取扱所	135	110	20	16	17	7	25	25	8	17
指定可燃物貯蔵取扱所	23	9	2	2		5			1	13

各種救命講習実施状況

(毎年1月1日～12月31日)

区分 年	普通救命講習		上級救命講習		応急手当普及員講習	
	回数	修了者	回数	修了者	回数	修了者
令和3年	84	724	7	66	1	13
令和2年	77	734	4	28		
令和元年	172	2,697	6	41	1	23
平成30年	164	2,752	6	88	1	12
平成5年 ～ 平成29年	2,683	44,805	69	1,172	30	618
合 計	3,180	51,712	92	1,395	33	666

※ 集計期間については、総務省消防庁の統計に合わせています。

各種講習について

普通救命講習：基本的な応急手当を学ぶ講習会（Ⅰ）とⅠの内容に加え、AEDを用いた心肺蘇生法に重点を置いた講習会（Ⅱ）があります。

統計は、ⅠとⅡの合算です。

上級救命講習：普通救命講習に加え、止血法や搬送法も学ぶ講習会です。

応急手当普及員講習：普通救命講習Ⅰの指導者を養成する講習会です。

消防音楽隊

所 属 \ 階 級	合 計	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
合 計	25			2	3	11	6	3
消 防 本 部	1			1				
松 任 消 防 署	5					2	1	2
千 代 野 分 署	4				1	2	1	
川 北 分 署								
野々市消防署	4			1		2	1	
鶴 来 消 防 署	3				1	1	1	
美 川 消 防 署	3					1	1	1
白 山 消 防 署	4				1	2	1	
白 峰 分 署	1					1		



活動状況

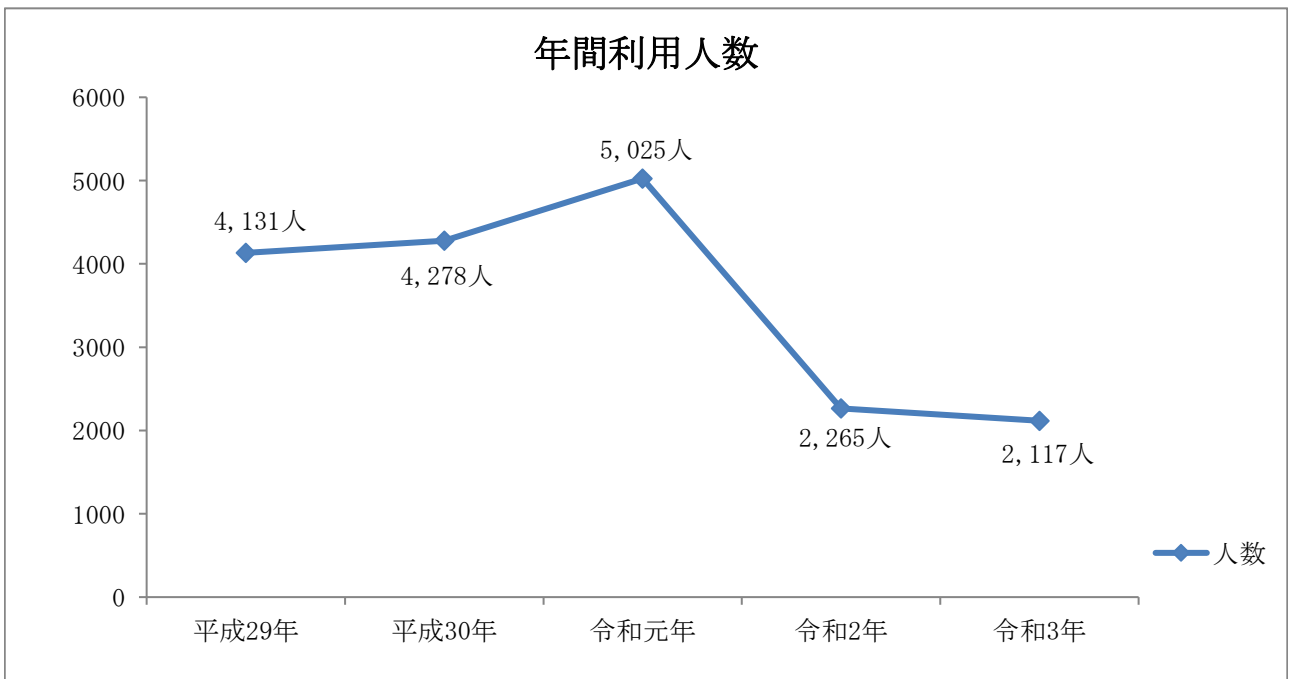
区 分 隊 名	活動回数	活 動 内 容				
		練 習	演 奏	組 合 行 事	市 町 行 事	そ の 他
消 防 音 楽 隊	51			48	3	

防災学習センター

利用状況

開館日 平成22年10月6日

年別	内訳	団体			個人			合計			1日平均 利用者数
		管内	管外	計	管内	管外	計	管内	管外	計	開館日数
H29	団体数	95	27	122							13.5 人
	人数	3,359	633	3,992	64	75	139	3,423	708	4,131	306 日
H30	団体数	101	30	131							14.0 人
	人数	3,641	457	4,098	113	67	180	3,754	524	4,278	306 日
R1	団体数	123	26	149							16.3 人
	人数	4,349	499	4,848	129	48	177	4,478	547	5,025	309 日
R2	団体数	46	13	59							8.6 人
	人数	1,671	366	2,037	153	75	228	1,824	441	2,265	264 日
R3	団体数	39	8	47							12.4 人
	人数	1,576	303	1,879	151	87	238	1,727	390	2,117	171 日
開館日 からの累計		1,231	284	1,515							15.2 人
		39,411	6,632	46,043	3,405	893	4,298	42,816	7,525	50,341	3,311 日



災 害 統 計

火 災 編

令和3年の火災概要

1 火災の概要

火災件数は23件で、1,432平方メートルが焼失し、1億435万4,000円の貴重な財産が失われ、死者が5人、負傷者が4人発生しました。

2 火災件数

火災件数については、過去5年平均27件を下回る23件で、前年と比較して6件の減少となっています。

火災種別ごとにみると、建物火災は19件で4件の増加、車両火災が1件で2件の減少、林野火災は発生なし、その他火災は3件で8件の減少となっています。

3 死傷者等

死者は5人で、前年と比較して3人の増加となっています。

負傷者は5人で前年と比較して3人の増加となっています。

4 焼損面積

建物火災による焼損面積については、床面積が1,432平方メートルで前年と比較して691平方メートルの増加となっています。

表面積については、70平方メートルで前年と比較して53平方メートルの減少となっています。

5 損害額

損害額については、1億435万4,000円で、前年と比較して6,829万9,000円の増加となっています。

6 出火原因

出火原因については、「たばこ」による火災が4件で最も多く、次いで「ストーブ」、「放火」が3件、「マッチ・ライター」が2件、「排気管」、「溶接機・切断機」、「電気機器」、「放火の疑い」が各1件、「その他」4件、不明が3件となっています。

火災状況及び前年比較

区 分		令和3年	令和2年	増△減
出	火 件 数 (件)	23	29	△ 6
	建 物 火 災	19	15	4
	林 野 火 災			
	車 両 火 災	1	3	△ 2
	船 舶 火 災			
	航 空 機 火 災			
	そ の 他 火 災	3	11	△ 8
建 物 焼 損 棟 数 (棟)		42	19	23
	全 焼	12	5	7
	半 焼	1	1	
	部 分 焼	14	6	8
	ぼ や	15	7	8
建 物 焼 損 床 面 積 (㎡)		1,432	741	691
林 野 焼 損 面 積 (a)				
車 両 焼 損 台 数 (台)		5	3	2
死 者 (人)		5	2	3
負 傷 者 (人)		5	2	3
り 災 世 帯 数 (世帯)		27	10	17
	全 損	5	5	
	半 損	1	1	
	小 損	21	4	17
り 災 人 員 (人)		70	17	53
損 害 額 (千円)		104,354	36,055	68,299
	建 物 損 害	103,262	34,700	68,562
	林 野 損 害			
	車 両 損 害	1,069	241	828
	船 舶 損 害			
	航 空 機 損 害			
	そ の 他 損 害	23	1,114	△ 1,091
	爆 発 損 害			
1 日 あたり	出 火 件 数 (件)	0.06	0.08	△ 0.02
	損 害 額 (千円)	286	99	187
建 物 火 災 1 件 あたり	建 物 焼 損 棟 数 (棟)	2.21	1.27	0.94
	建 物 焼 損 床 面 積 (㎡)	75.37	49.43	25.94
	損 害 額 (千円)	5,435	2,313	3,122
	り 災 世 帯 数 (世帯)	1.42	0.67	0.75
	り 災 人 員 (人)	3.68	1.13	2.55
住民1人あたりの損害額 (円)		604	209	395
火 災 発 生 間 隔 (日)		15.87	12.59	3.28
管 内 人 口 (人)		172,860	172,564	296
出 火 率 (件)※		1.33	1.68	△ 0.35

※ 出火率とは、人口1万人あたりの出火件数をいう。

過去5年間の火災状況

区 分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	平 均
出 火 件 数 (件)	22	31	21	29	23	25.2
建物 火 災	13	19	13	15	19	15.8
林 野 火 災		1				0.2
車 両 火 災	5	6	6	3	1	4.2
船 舶 火 災						
航空機 火 災						
その他 火 災	4	5	2	11	3	5.0
建物焼損棟数 (棟)	23	19	17	19	42	24.0
全 焼	7	1	3	5	12	5.6
半 焼			2	1	1	0.8
部 分 焼	8	3	1	6	14	6.4
ぼ や	8	15	11	7	15	11.2
建物焼損床面積 (㎡)	1,081	414	819	741	1,432	897.4
建物焼損表面積 (㎡)	50	20	6	123	70	53.8
林野焼損面積 (a)		2				0.4
車両焼損台数 (台)	14	6	6	3	5	6.8
死 者 (人)		3	1	2	5	2.2
負 傷 者 (人)	3	1	9	2	5	4.0
り 災 世 帯 数 (世帯)	12	9	8	10	27	13.2
全 損	2	3	2	5	5	3.4
半 損			2	1	1	0.8
小 損	10	6	4	4	21	9.0
り 災 人 員 (人)	40	20	24	17	70	34.2
損 害 額 (千円)	113,606	42,713	109,324	36,055	104,354	81,210.4
建物 損 害	101,966	41,133	103,726	34,700	103,262	76,957.4
林 野 損 害						
車 両 損 害	9,753	891	5,598	241	1,069	3,510.4
船 舶 損 害						
航空機 損 害						
その他 損 害	1,887	689		1,114	23	742.6
爆 発 損 害						
管 内 人 口 (人)	171,080	172,564	172,794	172,564	172,860	—
※ 出 火 率 (件)	1.29	1.80	1.22	1.68	1.33	—

構成市町別出火状況

区 分	市・町 (地域)	合 計	白 山 市							野 々 市 市	川 北 町	
			松 任 地 域	美 川 地 域	鶴 来 地 域	河 内 地 域	吉 野 谷 地 域	鳥 越 地 域	尾 口 地 域			白 峰 地 域
出 火 件 数		23	16	13	2	1					6	1
建物火災		19	15	12	2	1					3	1
林野火災												
車両火災		1	1	1								
船舶火災												
航空機火災												
その他火災		3									3	
火元棟	焼損床面積 (㎡)	151	151	151								
	焼損表面積 (㎡)											
焼 損 棟 数		42	38	24	13	1					3	1
全 焼		12	12	5	7							
半 焼		1	1	1								
部 分 焼		14	14	8	6							
ぼ や		15	11	10		1					3	1
り 災 世 帯		27	23	14	8	1					4	
全 損		5	5	2	3							
半 損		1	1	1								
小 損		21	17	11	5	1					4	
り 災 人 員		70	63	40	20	3					7	
焼 損 面 積	床 面 積 (㎡)	1,432	1,432	428	1,004							
	表 面 積 (㎡)	70	68	33	35						1	1
	林 野 (a)											
焼 損 車 両 台 数		5	5	5								
死 者		5	5	5								
負 傷 者		5	2	1	1						2	1
損 害 額 (千円)		104,354	103,303	13,680	89,623						15	1,036
建物損害		103,262	102,211	12,591	89,620						15	1,036
林野損害												
車両損害		1,069	1,069	1,069								
船舶損害												
航空機損害												
その他損害		23	23	20	3							
爆発損害												
1 件 平均 損害 額 (千円)		4,537	6,456	1,052	44,812						3	1,036

過去5年間の構成市町別出火状況

件数(件)
損害額(千円)

区 分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	平 均	
件 数 合 計	22	31	21	29	23	25.2	
損 害 額 合 計	113,606	42,713	109,324	36,055	104,354	81,210.4	
白 山 市	13	18	14	23	16	16.8	
	84,079	40,148	109,170	30,134	103,303	73,366.8	
	松 任 地 域	12	9	11	15	13	12.0
		83,991	38,268	46,266	16,960	13,680	39,833.0
	美 川 地 域		2		5	2	1.8
			263		13,158	89,623	20,608.8
	鶴 来 地 域	1	3	2	3	1	2.0
		88	1,253	62,904	16		12,852.2
	河 内 地 域			1			0.2
	吉 野 谷 地 域						
鳥 越 地 域		1				0.2	
尾 口 地 域		2				0.4	
		328				65.6	
白 峰 地 域		1				0.2	
		36				7.2	
野 々 市 市	6	11	7	6	6	7.2	
	20,477	2,542	154	5,921	15	5,821.8	
川 北 町	3	2			1	1.2	
	9,050	23			1,036	2,021.8	

過去5年間の原因別出火状況

原因区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	平均
合計件数	22	31	21	29	23	25.2
たばこ	2	2	1	2	4	2.2
こんろ			3	2		1.0
かまど						
風呂かまど						
炉		2				0.4
焼却炉			1			0.2
ストーブ	1	1			3	1.0
こたつ						
ボイラー						
煙突・煙道		1				0.2
排気管			1	2	1	0.8
電気機器	1	3	2	3	1	2.0
電気装置	2	1	1			0.8
電灯・電話等の配線		1	1	2		0.8
内燃機関			1			0.2
配線器具	1	1				0.4
火あそび	1					0.2
マッチ・ライター	1	2	1		2	1.2
たき火			1	1		0.4
溶接機・切断機				1	1	0.4
灯						
衝突の火花						
取灰			1	1		0.4
火入れ		2		1		0.6
放火	1	2		4	3	2.0
放火の疑い	3	3		2	1	1.8
その他	3	6	4	5	4	4.4
不明	6	4	3	3	3	3.8
調査中						

時間・曜日・覚知・原因別出火件数

区 分	合計	時 間 帯																										
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24			
出 火 件 数		23			2	1					1	1	2	1		1	1	1	3	3	1	2			1	1		1
火 災 種 別	建 物 火 災	19			2	1					1	1		1		1	1	1	3	2	1	1			1	1		1
	林 野 火 災																											
	車 両 火 災	1																				1						
	船 舶 火 災																											
	航 空 機 火 災																											
そ の 他 火 災	3											2								1								
曜 日 別	月 曜 日	3										1							1			1						
	火 曜 日	7			1					1					1			1	1					1	1			
	水 曜 日	5										1						1	2	1								
	木 曜 日	1																				1						
	金 曜 日	3			1						1																	1
	土 曜 日	3				1						1						1										
	日 曜 日	1													1													
不 明																												
覚 知 別	119番	固定電話(IP)																										
		固定電話(加入)	2														1					1						
	119番以外	携 帯 電 話	10			2	1					1	1	1				1	2		1							
		固 定 電 話	2																1						1			
	警 察 電 話																											
	駆 け 付 け																											
	事 後 聞 知	8								1	2							1	1	1		1				1		
そ の 他	1																										1	
出 火 原 因	た ば こ	4								1				1		1	1	1										
	こ ん ろ ど																											
	か ま ど																											
	風 呂 か ま ど																											
	炉																											
	焼 却 炉																											
	ス ト ー ブ	3											1					1			1							
	こ た つ																											
	ボ イ ラ -																											
	煙 突 ・ 煙 道																											
	排 気 管	1																							1			
	電 気 機 器	1																	1									
	電 気 装 置																											
	電 灯 ・ 電 話 等 の 配 線																											
	内 燃 機 関																											
	配 線 器 具																											
	火 あ そ び																											
	マ ッ チ ・ ラ イ タ ー	2											1														1	
た き 火																												
火 入 れ																												
放 火	3								1											2								
放 火 の 疑 い	1			1																								
そ の 他	4										1							1		1							1	
不 明	3			1	1												1											
調 査 中																												
合 計	23			2	1					1	1	2	1		1	1	1	3	3	1	2			1	1		1	

救急・救助 編

令和3年の救急概要

1 救急出動件数及び搬送人員

救急出動件数については、6,141件で前年の5,504件に比べ637件増加し、1日平均では約17件出動したことになります。

搬送人員については、5,882人で、管内住民の約29人に1人が搬送されたことになります。

2 事故種別

事故種別では、急病が4,116件で最も多く、次いで一般負傷989件、転院搬送438件、交通事故410件の順となっています。

3 普及啓発活動

応急手当の普及啓発は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、応急手当講習会の規模を縮小しながら管内住民及び事業所を対象に92回の講習会を開催し、803人が受講しました。

令和3年の救助概要

1 救助出動件数及び救出人員

救助出動件数は68件で、救出人員は35人となっています。

2 事故種別

事故種別では、交通事故が24件で最も多く、次いで建物等による事故が13件となっています。

救急活動状況

種別 区分		合計	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ
			災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	院	師	器	の
			災	災		害	害	技	負	害	為		搬	搬	材	他
				害					傷				送	送	等	
									傷						の	
									傷						輸	
									傷						送	
									傷							
件数	出 動	6,141	20	2	2	410	86	15	989	17	38	4,116	438			8
	搬 送	5,851	4	2		392	84	15	948	14	25	3,929	438			
	不搬送	290	16		2	18	2		41	3	13	187				8
搬送人員		5,882	4	2		415	84	15	955	14	25	3,930	438			
死 亡		122				5	1		11		9	96				
重 症		842				14	11		198	1	2	510	106			
中等症		2,389	3			82	31	8	312	4	7	1,650	292			
軽 症		2,529	1	2		314	41	7	434	9	7	1,674	40			

※傷病程度の定義

死 亡：初診時において死亡が確認されたもの。

重 症：傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの。

中等症：傷病程度が重症又は軽症以外のもの。

軽 症：傷病程度が入院加療を必要としないもの。

過去5年間の救急活動概要

種 別		年					平 均
		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
出 動 件 数		5,694	6,114	5,953	5,504	6,141	5,881.2
搬 送 件 数		5,349	5,717	5,644	5,215	5,851	5,555.2
搬 送 人 員		5,405	5,770	5,705	5,255	5,882	5,603.4
事 故 種 別 救 急 出 動 件 数	火 災	20	19	25	17	20	20.2
	自然災害					2	0.7
	水 難	3	4	2	11	2	4.4
	交 通	531	490	465	450	410	469.2
	労働災害	59	93	99	70	86	81.4
	運動競技	37	35	38	16	15	28.2
	一般負傷	916	902	876	894	989	915.4
	加 害	9	20	20	13	17	15.8
	自損行為	30	31	49	42	38	38.0
	急 病	3,734	4,015	3,891	3,551	4,116	3,861.4
	転院搬送	352	504	487	435	438	443.2
	医師搬送						
	資 器 材 等 輸 送						
	そ の 他	3	1	1	5	8	3.6
1日平均出動件数		15.6	16.8	16.3	15.1	16.8	16.4
管 内 人 口		171,080	172,564	172,794	172,564	172,860	172,372.4
人口1万人あたりの 救急出動件数		332.8	354.3	344.5	319.0	355.3	341.2

構成市町別救急状況

出 動 先		種 別	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 輸 器 材 等 送	そ の 他
合 計	出動件数	6,141	20	2	2	410	86	15	989	17	38	4,116	438				8
	搬送人員	5,882	4	2		415	84	15	955	14	25	3,930	438				
白 山 市	出動件数	3,903	16	2	2	269	59	14	661	11	25	2,563	277				4
	搬送人員	3,757	2	2		278	57	14	640	9	17	2,461	277				
松 任 地 域	出動件数	2,393	12		1	182	37	8	372	4	18	1,579	177				3
	搬送人員	2,304	1			189	35	8	359	4	14	1,517	177				
鶴 来 地 域	出動件数	705			1	35	5	1	122	3	1	469	67				1
	搬送人員	684				36	5	1	120	3	1	451	67				
美 川 地 域	出動件数	478	4			26	6	4	76	1	2	331	28				
	搬送人員	463	1			25	6	4	74	1	1	323	28				
河 内 地 域	出動件数	48				5	3		17			23					
	搬送人員	47				6	3		17			21					
吉 野 谷 地 域	出動件数	63				3	2		17		1	40					
	搬送人員	60				3	2		16			39					
鳥 越 地 域	出動件数	96		1		8	3		25		2	57					
	搬送人員	95		1		9	3		25		1	56					
尾 口 地 域	出動件数	39				6	3		13		1	16					
	搬送人員	36				6	3		14			13					
白 峰 地 域	出動件数	81		1		4		1	19	3		48	5				
	搬送人員	68		1		4		1	15	1		41	5				
野 々 市 市	出動件数	2,034	3			124	19	1	289	6	13	1,419	157				3
	搬送人員	1,932	2			123	19	1	277	5	8	1,340	157				
川 北 町	出動件数	200	1			15	8		38			133	4				1
	搬送人員	189				12	8		37			128	4				
そ の 他 市 町	出動件数	4				2			1			1					
	搬送人員	4				2			1			1					

救急隊別救急活動状況

出動隊 種別		合	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ
		計	災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	院	師	輸	の
			害	災	難	害	害	競	負	害	行		送	搬	材	他
								技	傷		為			送	等	
合計	出動件数	6,141	20	2	2	410	86	15	989	17	38	4,116	438			8
	搬送人員	5,882	4	2		415	84	15	955	14	25	3,930	438			
松任救急隊	出動件数	1,236	4		1	92	16	5	182	1	7	778	147			3
	搬送人員	1,185	1			94	16	5	180	1	5	736	147			
千代野救急隊	出動件数	1,222	11			79	15	4	186	4	7	852	63			1
	搬送人員	1,170	1			80	14	4	174	4	5	825	63			
鶴来救急隊	出動件数	648		1	1	34	5	1	118	3	1	418	66			
	搬送人員	631		1		35	5	1	113	3	1	406	66			
美川救急隊	出動件数	685	2			38	14	4	113	1	4	474	34			1
	搬送人員	661				36	13	4	112	1	2	459	34			
白山救急隊	出動件数	245				16	10		72	1	3	139	4			
	搬送人員	237				18	10		74		1	130	4			
白峰救急隊	出動件数	81		1		6		1	17	2	1	49	4			
	搬送人員	69		1		6		1	13	1		43	4			
野々市救急隊	出動件数	1,681	3			116	18		234	5	13	1,180	110			2
	搬送人員	1,599	2			119	18		224	4	9	1,113	110			
川北救急隊	出動件数	343				29	8		67		2	226	10			1
	搬送人員	330				27	8		65		2	218	10			

事故種別年齢区分別傷病程度別搬送人員

種別 区分	合計	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	そ
		災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	の
		災	災	難	通	災	競	負		行		他
			害			害	技	傷	害	為	病	
合計	5,882	4	2		415	84	15	955	14	25	3,930	438
死亡	122				5	1		11		9	96	
重症	852				14	11		198	1	2	518	108
中等症	2,374	3			81	31	8	311	4	7	1,639	290
軽症	2,534	1	2		315	41	7	435	9	7	1,677	40
新生児	1										1	
死亡												
重症												
中等症	1										1	
軽症												
乳幼児	262				10			67			175	10
死亡	1							1				
重症												
中等症	37							4			26	7
軽症	224				10			62			149	3
少年	204				42		14	42	1		94	11
死亡												
重症	2				1							1
中等症	42				6		7	7			14	8
軽症	160				35		7	35	1		80	2
成人	1,815	4	2		236	66		178	9	22	1,170	128
死亡	26				3					9	14	
重症	105				7	8		16		1	56	17
中等症	580	3			37	25		55	1	6	359	94
軽症	1,104	1	2		189	33		107	8	6	741	17
老人	3,600				127	18	1	668	4	3	2,490	289
死亡	95				2	1		10			82	
重症	745				6	3		182	1	1	462	90
中等症	1,714				38	6	1	245	3	1	1,239	181
軽症	1,046				81	8		231		1	707	18

※ 年齢区分の定義
 新生児：生後28日未満
 乳幼児：生後28日以上7歳未満
 少年：7歳以上18歳未満
 成人：18歳以上65歳未満
 老人：65歳以上

時間帯別出動件数

種別 時間	合計	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 輸 機 材 等 送	そ の 他
合計	6,141	20	2	2	410	86	15	989	17	38	4,116	438			8
0 ~ 2	229				7			20	1	2	194	5			
2 ~ 4	212	3			3	1		22		2	180	1			
4 ~ 6	234	3			7			39		1	182	2			
6 ~ 8	413				27	3		74	1	1	301	6			
8 ~ 10	817	1	1	1	49	13	2	166	2	3	504	74			1
10 ~ 12	823	2	1		51	19	6	141		7	501	95			
12 ~ 14	699	2			37	18	1	130		3	417	87			4
14 ~ 16	692	1		1	57	16		109	1	6	435	65			1
16 ~ 18	609	4			71	10	1	87	3	3	371	57			2
18 ~ 20	598	2			55	2	5	97	3	4	406	24			
20 ~ 22	465	1			26	3		64	4		354	13			
22 ~ 24	350	1			20	1		40	2	6	271	9			

時間帯別搬送人員

種別 時間	合計	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 輸 機 材 等 送	そ の 他
合計	5,882	4	2		415	84	15	955	14	25	3,930	438			
0 ~ 2	216				6			19	1	2	183	5			
2 ~ 4	199				4	1		19		2	172	1			
4 ~ 6	225				7			38		1	177	2			
6 ~ 8	401				25	3		71	1	1	294	6			
8 ~ 10	790		1		49	13	2	164	1	1	485	74			
10 ~ 12	791	1	1		51	18	6	140		4	475	95			
12 ~ 14	672				39	17	1	128		1	399	87			
14 ~ 16	679				62	16		106	1	5	424	65			
16 ~ 18	581	2			73	10	1	80	3	3	352	57			
18 ~ 20	559	1			53	2	5	92	2	2	378	24			
20 ~ 22	443				26	3		60	4		337	13			
22 ~ 24	326				20	1		38	1	3	254	9			

現場到着所要時間別出動件数

時間 種別	合計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	平均時間 (分)
合計	6,141	82	869	4,230	897	63	6.9
急病	4,116	46	526	2,931	591	22	6.7
交通	410	8	62	256	81	3	7.2
一般負傷	989	16	105	689	149	30	7.6
その他	626	12	176	354	76	8	6.2
							前年度 平均時間 6.9分

医療機関収容所要時間別搬送人員

時間 種別	合計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	平均時間 (分)
合計	5,882 (100.0%)		121 (2.1%)	1,518 (25.8%)	3,867 (65.7%)	360 (6.1%)	16 (0.3%)	36.6
急病	3,930 (100.0%)		52 (1.3%)	986 (25.1%)	2,677 (68.1%)	207 (5.3%)	8 (0.2%)	33.6
交通	415 (100.0%)		5 (1.2%)	96 (23.1%)	288 (69.4%)	25 (6.0%)	1 (0.2%)	42.5
一般負傷	955 (100.0%)		8 (0.8%)	214 (22.4%)	626 (65.5%)	101 (10.6%)	6 (0.6%)	34.1
その他	582 (100.0%)		56 (9.6%)	222 (38.1%)	276 (47.4%)	27 (4.6%)	1 (0.2%)	36.1

曜日別月別出動件数

種別 曜日/月	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	資器材等送	その他
月曜日	948				61	10	2	146	3	6	639	81			
火曜日	866	8	1	1	37	15	2	140	3	3	574	81			1
水曜日	917	3			63	13	1	130	2	6	626	73			
木曜日	810	1			48	10	2	133	4	4	533	73			2
金曜日	905	2		1	53	27	3	141	1	9	603	63			2
土曜日	867	4			78	8	1	164	4	5	557	45			1
日曜日	828	2	1		70	3	4	135		5	584	22			2
合計	6,141	20	2	2	410	86	15	989	17	38	4,116	438			8
1月	514	1	2		20	8		94	1	2	347	39			
2月	419	1			23	5	1	71		7	276	35			
3月	485	4			37	7		77	3	3	316	37			1
4月	480	2			34	6	2	72		1	328	35			
5月	485	1			32	9	3	82	1	1	318	37			1
6月	536	3			35	5	4	89	2	5	360	32			1
7月	624	1			38	9	3	91	4	3	428	46			1
8月	516	1			30	5	1	73	1	4	373	27			1
9月	474	1			37	5		66		3	334	27			1
10月	549	2		1	44	7	1	86	2	4	365	37			
11月	507	1		1	36	14		85	1	2	318	48			1
12月	552	2			44	6		103	2	3	353	38			1

曜日別月別搬送人員

種別 曜日/月	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	資器材等送	その他
月曜日	904				58	10	2	139	2	4	608	81			
火曜日	828	2	1		38	15	2	136	3	3	547	81			
水曜日	885	1			63	13	1	127	2	5	600	73			
木曜日	779				46	10	2	127	3	2	516	73			
金曜日	860				54	25	3	134		5	576	63			
土曜日	831	1			83	8	1	156	4	3	530	45			
日曜日	795		1		73	3	4	136		3	553	22			
合計	5,882	4	2		415	84	15	955	14	25	3,930	438			
1月	494		2		22	8		88	1		334	39			
2月	397				25	5	1	69		3	259	35			
3月	459	2			36	7		71	3		303	37			
4月	461				35	6	2	69			314	35			
5月	469				31	9	3	79		1	309	37			
6月	506				32	4	4	87	2	5	340	32			
7月	599				43	9	3	88	3	3	404	46			
8月	499				30	5	1	69	1	4	362	27			
9月	456	1			37	5		67		1	318	27			
10月	527				41	7	1	86	2	3	350	37			
11月	496	1			40	13		82		2	310	48			
12月	519				43	6		100	2	3	327	38			

白山白川郷ホワイトロードにおける救急状況

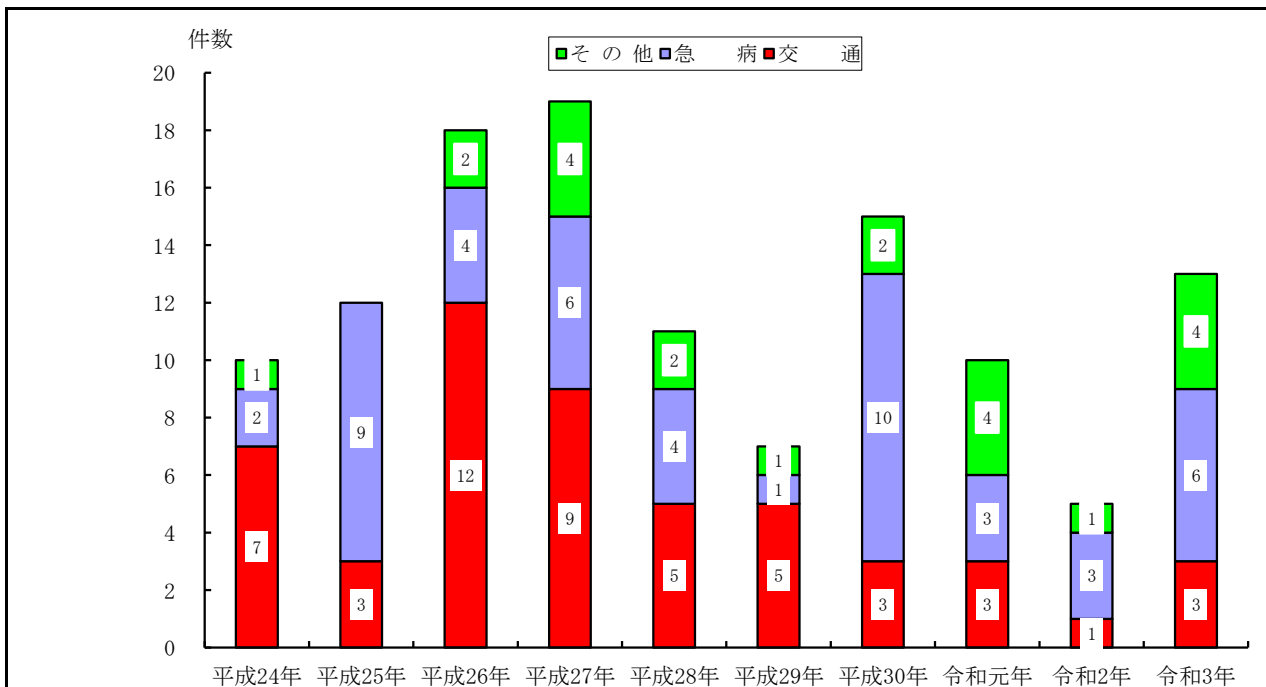
白山白川郷ホワイトロードにおける救急活動状況は、昭和52年8月の開通以来45年間で出場累計58件、56人を搬送した。

年 区分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
供用期間	6/1～11/18	6/8～11/17	5/30～11/16	6/14～11/15	6/4～11/13	6/11～11/19	6/15～11/13	7/19～11/25	なし※	6/19～11/10
日数	171	163	171	155	163	162	152	129		145
出場件数	3	3	1	3	2		1			
交通	3	1	1	1						
急病		1		1	1					
その他		1		1	1		1			
搬送件数	3	3	1	2	1					
搬送人員	4	3	1	2	1					

※ 土砂崩落による工事のため使用期間なし。

北陸自動車道における救急状況

高速自動車国道北陸自動車道における救急活動状況は、救急業務を開始した昭和55年以来42年間で、出場累計581件、659人を搬送した。



年 区分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
出場件数	10	12	18	19	11	7	15	10	5	13
交通	7	3	12	9	5	5	3	3	1	3
急病	2	9	4	6	4	1	10	3	3	6
その他	1		2	4	2	1	2	4	1	4
搬送件数	9	12	15	13	11	7	12	8	5	11
搬送人員	9	12	16	14	11	8	13	8	5	11

救助状況及び前年比較

区 分		令和3年	令和2年	増△減	
合 計	出 動 件 数	68	84	△ 16	
	活 動 件 数	40	50	△ 10	
	救 助 人 員	35	53	△ 18	
火 災	建 物	出 動 件 数	4	3	1
		活 動 件 数	4	3	1
		救 助 人 員	1	1	
	建 以 外	出 動 件 数			
		活 動 件 数			
		救 助 人 員			
交 通 事 故	出 動 件 数	24	35	△ 11	
	活 動 件 数	5	13	△ 8	
	救 助 人 員	6	16	△ 10	
水 難 事 故	出 動 件 数	2	9	△ 7	
	活 動 件 数	2	8	△ 6	
	救 助 人 員	2	8	△ 6	
風 水 害 等 自 然 災 害 事 故	出 動 件 数				
	活 動 件 数				
	救 助 人 員				
機 械 等 事 故 よ る 事 故	出 動 件 数	4	1	3	
	活 動 件 数	3		3	
	救 助 人 員	4		4	
建 物 等 事 故 よ る 事 故	出 動 件 数	13	10	3	
	活 動 件 数	9	6	3	
	救 助 人 員	6	6		
ガ ス 及 び 事 故 酸 欠 事 故	出 動 件 数				
	活 動 件 数				
	救 助 人 員				
破 裂 事 故	出 動 件 数				
	活 動 件 数				
	救 助 人 員				
そ の 他 の 事 故	出 動 件 数	21	26	△ 5	
	活 動 件 数	17	20	△ 3	
	救 助 人 員	16	22	△ 6	

構成市町別救助状況

市町別	種別 内訳	合計	火 災		交 通 事 故	水 難 事 故	事 自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 事 故	酸ガ 欠ス 事及 故び	破 裂 事 故	そ の 他
			建 物	建 物 外								
合 計	出動件数	68	4		24	2		4	13			21 (14)
	活動件数	40	4		5	2		3	9			17 (14)
	救助人員	35	1		6	2		4	6			16 (13)
白 山 市	出動件数	52	4		20	2		3	5			18 (14)
	活動件数	32	4		5	2		2	3			16 (14)
	救助人員	28	1		6	2		2	2			15 (13)
松 任 地 域	出動件数	25	3		13	1		1	4			3
	活動件数	11	3		3	1		1	2			1
	救助人員	7			3	1		1	1			1
鶴 来 地 域	出動件数	3			2			1				
	活動件数	2			1			1				
	救助人員	2			1			1				
美 川 地 域	出動件数	6	1		4				1			
	活動件数	2	1						1			
	救助人員	3	1		1				1			
河 内 地 域	出動件数	1						1				
	活動件数											
	救助人員											
吉 野 谷 地 域	出動件数	3			1							2 (2)
	活動件数	3			1							2 (2)
	救助人員	3			1							2 (2)
鳥 越 地 域	出動件数	2				1						1
	活動件数	2				1						1
	救助人員	2				1						1
尾 口 地 域	出動件数	4										4 (4)
	活動件数	4										4 (4)
	救助人員	3										3 (3)
白 峰 地 域	出動件数	8										8 (8)
	活動件数	8										8 (8)
	救助人員	8										8 (8)
野 々 市 市	出動件数	14			3			1	7			3
	活動件数	7						1	5			1
	救助人員	6						2	3			1
川 北 町	出動件数	2			1				1			
	活動件数	1							1			
	救助人員	1							1			
そ の 他 市 町	出動件数											
	活動件数											
	救助人員											

※ 救助項目中、その他の()はうち山岳救助数を表す。

災害対応隊等の状況調査

月	区分	特別	水難	山岳	化学	連携機関			
						防災へ	県警へ	トクへ	その他
合計	救助出動	53	1	10		5		2	
	救助活動	19	1	9		5		2	
	救助人員	16	1	9		4		2	
1月	救助出動	3							
	救助活動	2							
	救助人員	1							
2月	救助出動	4							
	救助活動	2							
	救助人員	2							
3月	救助出動	7						1	
	救助活動	2						1	
	救助人員	2						1	
4月	救助出動	3		1		1			
	救助活動	1		1		1			
	救助人員			1		1			
5月	救助出動	3		1		1		1	
	救助活動	1		1		1		1	
	救助人員	1		1				1	
6月	救助出動	6	1						
	救助活動	3	1						
	救助人員	3	1						
7月	救助出動	3		6		2			
	救助活動	1		6		2			
	救助人員	1		6		2			
8月	救助出動	5		1					
	救助活動	1							
	救助人員								
9月	救助出動	1							
	救助活動								
	救助人員								
10月	救助出動	6							
	救助活動	2							
	救助人員	1							
11月	救助出動	3		1		1			
	救助活動	2		1		1			
	救助人員	2		1		1			
12月	救助出動	9							
	救助活動	2							
	救助人員	3							

そ の 他

119番着信件数

区分	合計	火災	救急	救助	事故	間違い	いたずら	訓練通報	試験通報	無応答	その他
合計	8,864	41	5,977	37	52	249	9	741	573	164	1,021
固定 119	2,128	4	983	2	6	43	4	338	519	19	210
携帯 119	4,391	28	3,155	32	42	179	4	84	42	138	687
I P 119	2,345	9	1,839	3	4	27	1	319	12	7	124

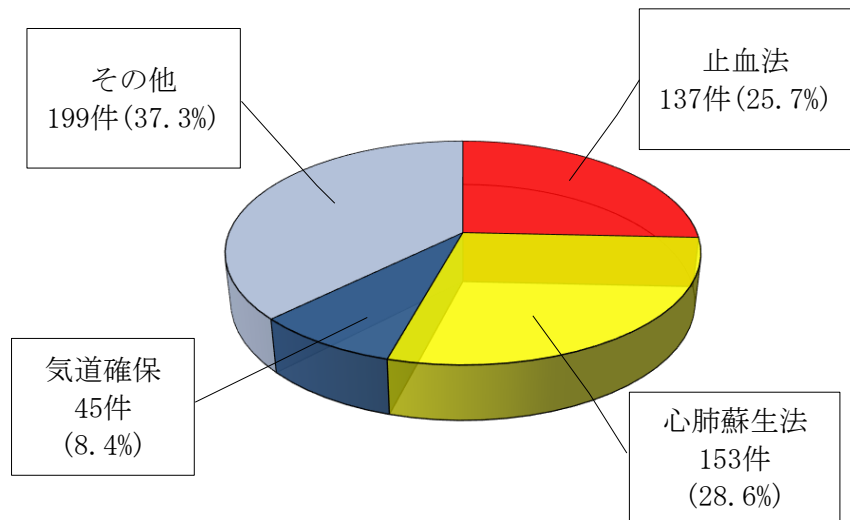
口頭指導及びバイスタンダー応急手当の状況

令和3年中の救急出動件数6,141件のうち119番で受信したものは、5,977件です。

この中で、傷病者の状態の悪化を防ぐため、534件の口頭指導を行いました。

口頭指導の内訳

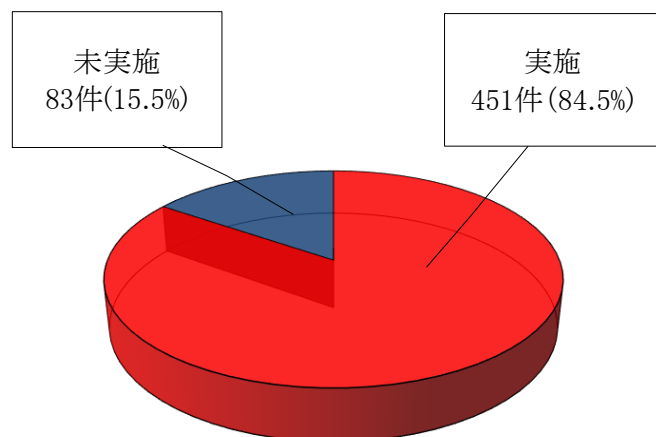
止血法	137 件
心肺蘇生法	153 件
気道確保	45 件
その他	199 件
合計	534 件



534件の口頭指導のうち、家族や同僚等の協力者(バイスタンダー)が応急手当を実施した件数は451件で、未実施であった件数は83件です。

口頭指導による応急手当の実施状況

実施	451 件
未実施	83 件
合計	534 件



障害者・外国人に円滑に対応するための取組

総務省消防庁では、障害者・外国人からの119番通報や救急現場等において円滑に対応できるよう、消防本部における「Net119緊急通報システム」、「三者間同時通訳」及び「多言語音声翻訳アプリ」の導入を推進しています。

当本部では、消防指令システムの更新に合わせて全て整備を行い、令和元年10月1日から運用を開始しました。

1 Net119緊急通報システム

Net119緊急通報システムは、音声による119番通報が困難な聴覚・言語機能障害者が、事前登録することにより、円滑に消防への通報を行えるようにするシステムです。

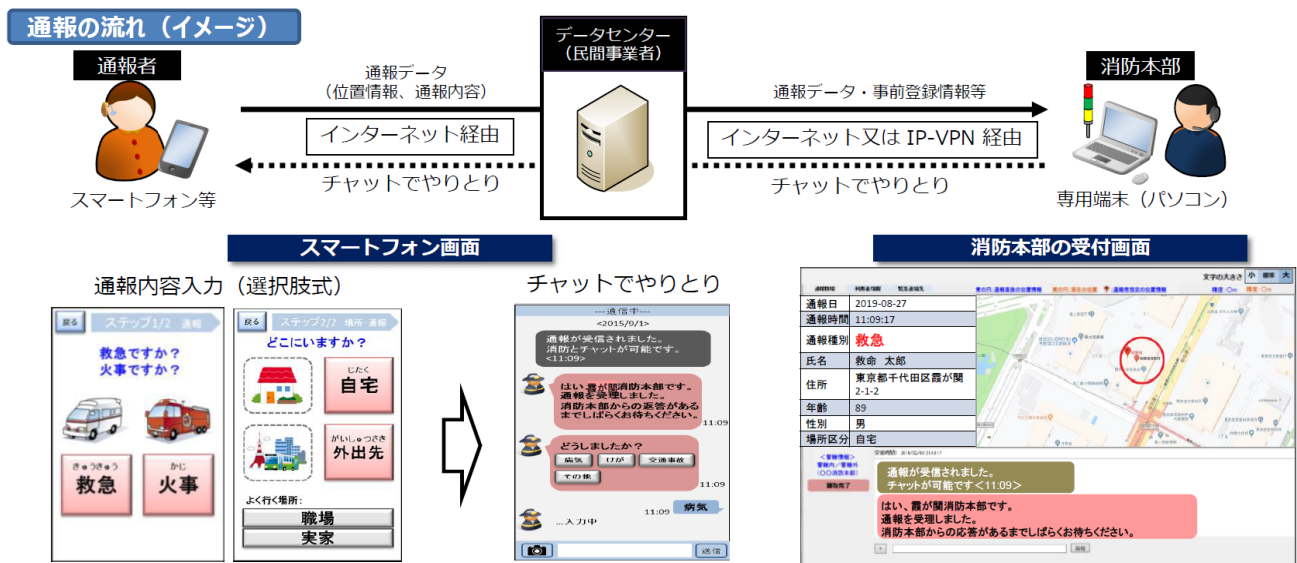
スマートフォンなどから通報用Webサイトにアクセスし、「火事」、「救急」の別と、通報者の位置情報を入力すれば、即座に消防本部に通報が繋がりと、その後テキストチャットで詳細を確認する仕組みです。

通報件数 (R3. 1. 1～R3. 12. 31)

災害種別	火災	救急	救助	合計
通報件数		63		63

登録者数 (R3. 12. 31現在)

市町名	白山市	野々市市	川北町	合計
登録者数	24	18		42



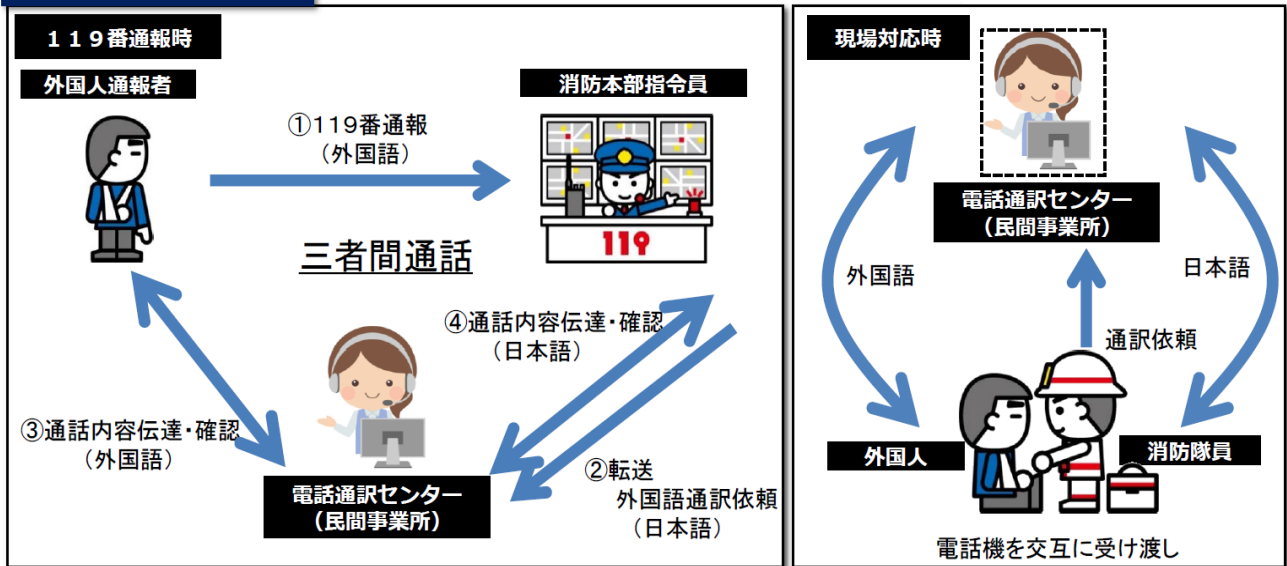
2 電話通訳センターを介した三者間同時通訳

電話通訳センターを介した三者間同時通訳は、外国人からの119番通報時や、外国人のいる救急現場での活動時等において、迅速かつ的確に対応するため、電話通訳センターを介して、24時間365日主要な言語で対応するものです。外国人からの119番通報を消防本部通信指令課で受け、それを電話通訳センターに転送することで、三者間同時通訳を行います。

また、119番通報時だけではなく、現場対応時においても、電話を交互に受け渡し、電話通訳センターに通訳を依頼することができます。

利用実績 (R3. 1. 1～R3. 12. 31)	なし
----------------------------	----

三者間同時通訳の流れ



3 多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」

救急ボイストラは、消防庁消防研究センターと国立研究開発法人情報通信研究機構が、救急隊用に開発した多言語音声翻訳アプリです。音声翻訳機能に加えて、救急現場で使用頻度が高い会話内容を「定型文」として登録しており、外国語による音声と画面の文字による円滑なコミュニケーションを図ることが可能です。

また、話した言葉を文字として表示する機能等があるため、聴覚障害者などとのコミュニケーションにも活用できます。

利用実績 (R3. 1. 1～R3. 12. 31)	6件
----------------------------	----



- 救急隊用46の定型文の対応言語は15種類※
- 聴覚障害者とのコミュニケーションにも活用可能

※ 定型文対応言語

英語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、韓国語、タイ語、フランス語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、ミャンマー語、ロシア語、マレー語、ドイツ語、ネパール語、ブラジルポルトガル語

消防車両等の出動状況

所 属	種 別 出 動 延 数	合 計	火	救	救	火	風	演	広	警	火	特	捜	予	そ
			災	急	助	災 外 事 故 等	水 害 等 の 災 害	習 訓 練	報 指 導	防 調 査	災 調 査	別 警 戒	索	防 査 察	の 他
合 計	車両数	14,332	81	7,134	132	70		1,970	423	799	39	9		703	2,972
	人員	45,436	295	22,017	461	254		6,960	1,368	2,737	139	28		2,480	8,697
松 任 消 防 署	車両数	2,867	27	1,372	61	16		352	37	134	13	1		159	695
	人員	10,004	115	4,283	243	66		1,249	151	535	53	4		638	2,667
千 代 野 分 署	車両数	2,403	14	1,319	7	9		471	37	100	5			69	372
	人員	8,077	51	4,133	26	33		1,745	140	383	18			263	1,285
川 北 分 署	車両数	980	5	344		2		126	35	85	3			42	338
	人員	2,554	16	949		6		379	102	252	9			126	715
野 々 市 消 防 署	車両数	3,225	16	2,054	19	26		288	114	120	10			180	398
	人員	10,348	57	6,424	61	95		1,102	359	423	34			628	1,165
鶴 来 消 防 署	車両数	1,800	5	777	12	6		292	71	105	1			123	408
	人員	5,689	16	2,399	27	20		1,072	226	358	4			422	1,145
美 川 消 防 署	車両数	1,616	14	847	14	8		194	86	84	7	6		69	287
	人員	4,869	40	2,574	42	25		654	260	267	21	18		215	753
白 山 消 防 署	車両数	894		340	12	3		143	25	95		2		40	234
	人員	2,558		1,012	38	9		453	78	293		6		125	544
白 峰 分 署	車両数	547		81	7			104	18	76				21	240
	人員	1,337		243	24			306	52	226				63	423

令和3年度版

消 防 年 報

令和4年12月発行

発行 白山野々市広域消防本部

石川県白山市三浦町255番地1

電話 (076) 276-1119